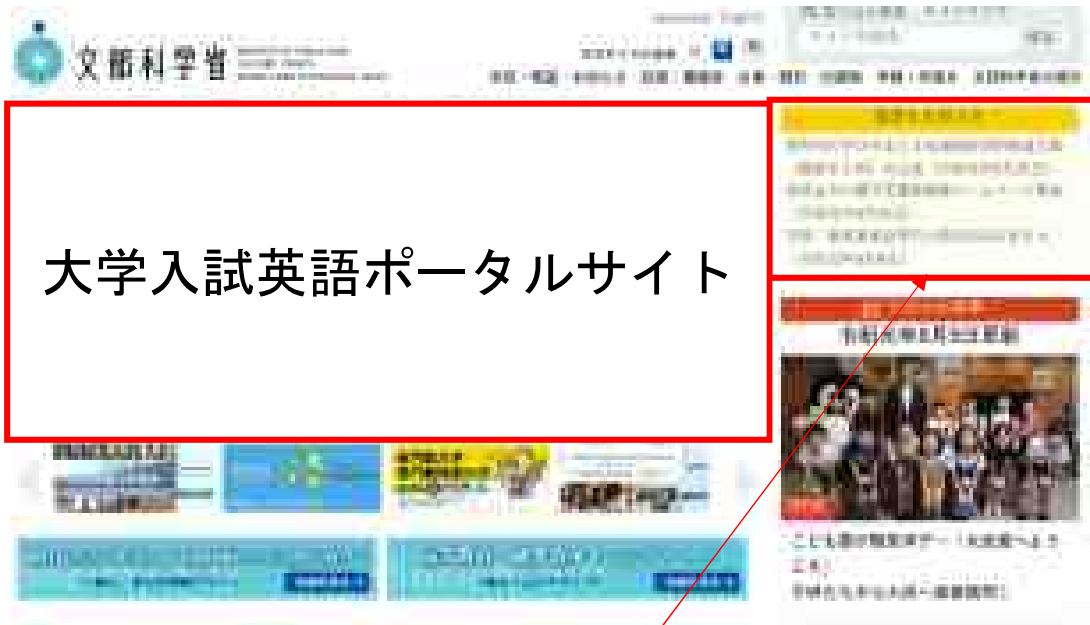


「大学入試英語ポータルサイト」について

○トップページの「バナー」及び「重要なお知らせ」に追加掲載



大学入試英語ポータルサイトの開設（令和元年8月27日）



大学入試英語ポータルサイト

2020年4月から、英語資格・検定試験を活用して、大学入試で英語の4技能を評価することを支援する「大学入試英語成績提供システム」の運営がスタートします。

このホームページでは、受験生や高等学校、大学の教職員の方に、「大学入試英語成績提供システム」の目的や内容を理解していただけるよう、関係情報を整理し掲載しています。

掲載情報は適宜更新しますので、積極的に御活用いただきたいと思っております。

1. 大学入試において、英語資格・検定試験を活用し、英語4技能の評価を推進することの意義について

○ なぜ、大学入試で英語4技能を評価することが必要なのですか。

グローバル化が急速に進展する中、英語によるコミュニケーション能力の向上が課題となっています。

このため、高等学校学習指導要領では、多様な人々と、互いの考えや情報を主体的に伝え合うため、英語の「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を総合的に育成することを求めてきましたが、高校3年生の英語力は特に「話す」「書く」に課題があることが調査結果から明らかとなっています。さらに、大学においても、グローバル化時代を担う人材を育成するためには、これら英語4技能の習得は重要です。

このため、大学入試において、高等学校段階までに育成した4技能の英語力を適切に評価することが必要です。このことは、高等学校において4技能をバランスよく育成する授業改善を一層進めることにもつながります。

○ なぜ、大学入試で英語4技能を評価するために、民間の資格・検定試験を活用するのですか。

大学入試は、高等学校段階で修得した知識や技能等を適切に評価することを目的としていますが、英語に関しては、約50万人規模で同一日程一斉実施型試

験による共通テストとして「話す」「書く」能力を含めた試験を実施することは、日程面も含めて現状において実現は極めて困難です。

一方、民間の資格・検定試験は、4技能を総合的に評価するものとして社会的に認知され、高等学校教育や大学入学者選抜で活用が進んでいます。

(参考)

・大学生の高校生時の英語資格・検定試験の受験状況

約37% (約23万人 (推計)) (平成27年度文部科学省委託調査より)

・大学入学者選抜において英語資格・検定試験を活用している大学 (平成27年度)

(国立大学) 計28.0%、推薦入試17.1%、AO入試14.6%、一般入試7.3%

(公立大学) 計22.6%、推薦入試16.7%、AO入試10.7%、一般入試1.2%

(私立大学) 計39.5%、推薦入試30.7%、AO入試21.2%、一般入試6.4%

このため、大学入試において4技能を評価することができるよう、現に民間事業者等により広く実施され、一定の評価が定着している資格・検定試験の活用を推進することとしました。

具体的な活用の在り方については、平成29年7月の「大学入学共通テスト実施方針」において、以下のように定めています。

① 資格・検定試験のうち、試験内容・実施体制等が入学者選抜に活用する上で必要な水準及び要件を満たしているものをセンターが認定し (以下、認定を受けた資格・検定試験を「認定試験」という。)、その試験結果及びCEFR (※) の段階別成績表示を要請のあった大学に提供する。

このような方式をとることにより、学習指導要領との整合性、実施場所の確保、セキュリティや信頼性等を担保するとともに、認定に当たり、各資格・検定試験実施団体に対し、共通テスト受検者の認定試験検定料の負担軽減方策や障害のある受検者のための環境整備策を講じることなどを求める。

また、認定試験を活用する場合は、受検者の負担に配慮して、できるだけ多くの種類の認定試験を対象として活用するよう各大学に求める。

※ CEFR…(Common European Framework of Reference for Languages : Learning , teaching , assessment) の略称。外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠。

② 国は、活用の参考となるよう、CEFRの段階別成績表示による対照表を提示する。

③ センターは、受検者の負担、高等学校教育への影響等を考慮し、高校3年の4月～12月の間の2回までの試験結果を各大学に送付することとする。

実際に英語の資格・検定試験を活用するかどうか、また、活用する場合に「大学入試英語成績提供システム」を利用するかどうかは、それぞれの大学の判断によりますが、各大学は資格・検定試験の活用や個別試験により英語4技能を総合的に評価するよう努めることが求められています。なお、「大学入試英語成績提供システム」は、大学入学共通テストを利用しない選抜や総合型選抜、学校推薦型選抜でも利用することができます。

2. 「大学入試英語成績提供システム」の概要や利用方法について

○ 「大学入試英語成績提供システム」とは、どのようなものですか。

「大学入試英語成績提供システム」は、英語資格・検定試験を活用して、大学入試で英語の4技能を評価することを支援するために大学入試センターが運営するシステムです。

本システムでは、受験生が大学を受験する年度の4月から12月までの期間に、大学入試センターが発行する個人を特定するためのコード（共通ID）を記入して受験した2回までの資格・検定試験の成績を、大学入試センターが集約・管理し、大学の求めに応じて提供します。

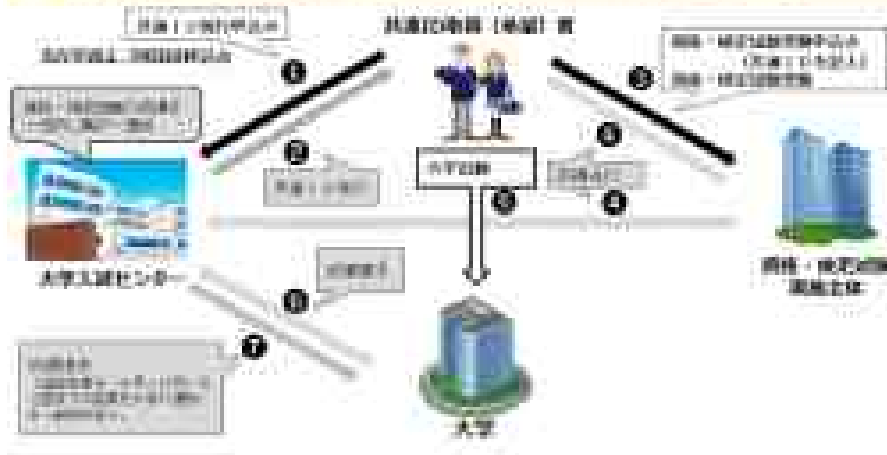
受験生は、志望する大学・学部等ごとに資格・検定試験実施主体に成績証明書の発行を請求し受領した上で、それを各大学に提出することが不要となり、手続面だけでなく場合によっては経費の面でも出願の負担が軽減されます。

大学は、受験生が提出する成績証明書の確認や、成績情報の入力作業等の事務作業が縮減されます。

[大学入試英語成績提供システム等の概要（PDF）](#)

大学入試英語成績提供システムの概要

- ▶ 自由・検定試験の成績を大学入試センターに提供し、出願し、入学を申請する。
- ▶ 成績が有効な期間は、大学入学後3年以内（4～12月）に限られます。
- ▶ 大学入学後履修科目の修得率、履修科目数、学修進捗状況等が利用可能。
- ▶ 大学入学後履修科目の修得率は大学の判断。
- ▶ 大学は履修科目の修得率に基づいて入学後履修科目の履修状況を判断する権利を有し、利用する権利を有する。



○ 共通IDを入手するためには、どのような手続が必要ですか。

「高等学校」（特別支援学校の高等部を含む。）又は「中等教育学校」を令和3年3月卒業見込みの者については、高等学校を經由して大学入試センターに申込みを行います。

卒業者（※）及びその他申込者については、個人で直接大学入試センターに申し込んでください。

詳細は、令和元年9月2日以降、大学入試センターのホームページから御覧いただけます。（本ページにもリンクを掲載予定です。）

※ただし、卒業者のうち令和元年度の高等学校第3学年の者については、高等学校等によって学校経由で申し込む場合がありますので、在学する高等学校等に確認してください。

3. 「大学入試英語成績提供システム」の成績提供の対象となる資格・検定試験の概要（各試験の概要、実施日程、試験実施会場等）

○ 資格・検定試験の概要や、実施日程、試験実施会場はどうなっていますか。

「大学入試英語成績提供システム」の成績提供の対象となる資格・検定試験は、6団体が行う22試験となる予定です。各試験の概要については、こちらを御覧ください。

[各資格・検定試験の実施概要（PDF）](#)

各試験の実施日程については、こちらを御覧ください。

[全試験の実施日程一覧（令和元年8月時点）（PDF）](#)

また、各試験別の実施日程と試験実施会場等の最新情報については、以下のリンク先の各試験実施主体のウェブサイトをご覧ください。

[ケンブリッジ英語検定（ケンブリッジ大学英語検定機構のサイトへリンク）（PDF）](#)

[IELTS（IDP：IELTS Australiaのサイトへリンク）（PDF）](#)

[IELTS（ブリティッシュ・カウンシルのサイトへリンク）（PDF）](#)

[TOEFL iBT（CIEEのサイトへリンク）（PDF）](#)

[GTEC（ベネッセコーポレーションのサイトへリンク）（PDF）](#)

[TEAP（公益財団法人日本英語検定協会のサイトへリンク）（PDF）](#)

[TEAP CBT（公益財団法人日本英語検定協会のサイトへリンク）（PDF）](#)

[英検CBT（公益財団法人日本英語検定協会のサイトへリンク）（PDF）](#)

[英検2020 1day S-CBT（公益財団法人日本英語検定協会のサイトへリンク）（PDF）](#)

[英検2020 2days S-Interview（公益財団法人日本英語検定協会のサイトへリンク）（PDF）](#)

4. 英語資格・検定試験活用に関する各試験実施主体の取組の内容

各試験実施主体が行っている試験の公平性・公正性を確保するための取組等をまとめています。受験生や高等学校においては、受験の際の、大学においては大学入試で利用する際の参考としてください。

[試験監督の考え方（PDF）](#)

[採点者の応募資格、採点者の選出基準、採点者の質の向上策、採点体制（ライティング）（PDF）](#)

[採点者の応募資格、採点者の選出基準、採点者の質の向上策、採点体制、面接者](#)

[の応募資格、面接者の選出基準（スピーキング）（PDF）](#)

[不正防止対策（PDF）](#)

[トラブル等発生時の再試験実施の可否及び対応策等について（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（ケンブリッジ英語検定）（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（IELTS（IDP））（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（IELTS（ブリティッシュ・カウンシル））（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（TOEFL iBT）（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（GTEC）（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（TEAP）（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（英検CBT）（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（英検2020 1day S-CBT）（PDF）](#)

[障害等のある受験生への合理的な配慮の内容（英検2020 2days S-Interview）（PDF）](#)

[試験対策問題集作成についての考え方（PDF）](#)

[第三者評価及び自己評価について（PDF）](#)

5. 大学・短大の大学入試英語成績提供システムの利用予定の状況

○ 各大学は、どのように英語の資格・検定試験の成績を活用するのですか。

各大学が「大学入試英語成績提供システム」を利用するかどうかは、各大学の判断によりますが、利用する場合、資格・検定試験の成績は「一定水準以上の成績を出願資格とする」、「個別選抜の英語の得点に加点する」など、各大学の考え方に基づいて活用されます。

各大学が、「大学入試英語成績提供システム」を利用するか否か、利用する場合に資格・検定試験の成績をどのように活用するかについては、こちらを御覧ください。（令和元年8月1日時点の情報を掲載しています。）

活用予定の詳細や最新情報については、各大学のホームページ等で御確認ください。また、内容に関しては、各大学にお問い合わせください。

[国立大学一覧](#)

[公立大学一覧](#)

[私立大学一覧](#)

[専門職大学一覧](#)

[短期大学一覧](#)

[専門職短期大学一覧](#)

なお、利用予定の情報を公表していない大学・短大に対しては、速やかな公表を要請しています。本ページに掲載されている一覧のうち、回答のなかった大学・短期大学については、リンク先は表示されません。

6. 質疑応答集（Q & A集）

よくある御質問への回答を質疑応答集（Q & A集）としてまとめました。今後、説明会等で寄せられた御質問への回答を適宜追加する予定です。

[質疑応答集（PDF）](#)

7. 関連資料集

平成29年7月の「大学入学共通テスト実施方針」や、令和元年6月の「大学入試英語成績提供システム運営大綱」など、大学入試英語成績提供システムに関係する資料をこちらに掲載しています。

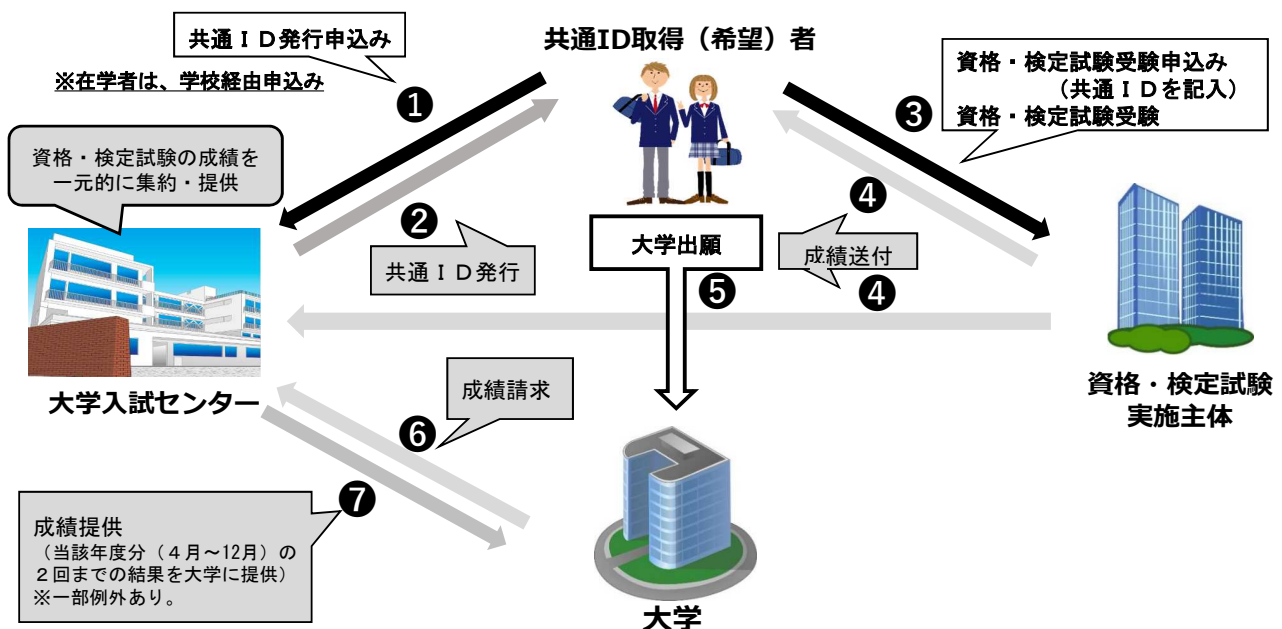
[関連資料集（リンク）](#)

● 大学入試英語成績提供システムについて

大学入試英語成績提供システムの概要

■ 概要

- 資格・検定試験の成績を大学入試センターで集約・管理し、大学へ成績提供
- 登録できる成績は、**大学を受験する年度の4～12月の最大2回まで**
- **大学入学共通テストを利用しない選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜**でも**利用可能**



「大学入試英語成績提供システム」活用の利点

① 受験生の成績証明書取得等の負担軽減

従来、受験生は志望する大学・学部等ごとに資格・検定試験実施主体に成績証明書の発行を請求し、受領した上で、それを各大学に提出する必要があった。

→大学入試英語成績提供システムの活用により、これらの出願に係る負担を軽減。

② 確実なスケジュール管理

従来、受験者が自ら成績証明書を取得して大学に提出する場合、「資格・検定試験の実施日」から「成績証明書を取得して大学に提出」するまでに必要な期間が必ずしも明確ではないことにより、大学への出願締切日までに成績証明書の取得・提出が間に合わないこともあった。

→大学入試英語成績提供システムでは、あらかじめそれぞれの試験実施日に受験した成績を大学に提供するスケジュールについて毎年公表するため、受験者及び大学が確実にスケジュールを管理することが可能。

2

共通IDの概要

共通IDの必要性

大学入試英語成績提供システムにおいて集約・提供する成績情報等を、個人ごとに識別・管理するために、全ての資格・検定試験共通で受験生を特定するためのコードとして、一人につき一つの共通IDを発行。

本人確認

共通IDの重複発行を防ぐため、申込時の本人確認書類として、次のものを求める。

- ・高校等(注)在学者: 在学証明書
(現行の大学入試センター試験と同様に、在籍校で一括して証明)
 - ・既卒者その他: 住民票等の本人確認書類
- (注)「高校等」には中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。

共通IDの有効期間

共通IDの有効期間は2年間

※令和元年11月から令和2年9月までに申込みをし、取得した共通IDの有効期限は令和4年3月31日まで。

3

大学入試英語成績提供システムの概要

■ 令和3年度大学入学者選抜に向けたスケジュール

共通 I D 発行申込み

- 集中発行申込期間：令和元年11月1日（金）～11月14日（木）（消印有効）
 - 追加発行申込期間：令和2年1月27日（月）～9月10日（木）（消印有効）
- ※ 令和元年高等学校第3学年の在学者について学校経由で申し込む場合は、**令和元年12月2日（月）～12月10日（火）（消印有効）**

共通 I D通知 はがきの受理

- 集中発行申込期間申込分：令和2年1月中旬頃までに送付
 - 追加発行申込期間申込分：大学入試センター受理後、原則30日以内に送付
- ※ 令和元年高等学校第3学年の在学者について学校経由で申し込んだ場合は、**令和2年2月中旬頃まで**に送付。

登録内容の 修正・変更

- 共通 I D通知はがきの登録内容に誤りがある場合や修正・変更等の必要が生じた場合は、速やかに修正・変更。

資格・検定 試験の受験

- 令和2年4月から12月の間に最大2回まで共通 I Dを用いて資格・検定試験を受験。

確認期間

- 大学に成績が提供される資格・検定試験の確認。
受験期間 A：令和2年8月7日（金）～8月13日（木） / 受験期間 B：令和2年10月7日（水）～10月13日（火）
受験期間 C：令和2年12月22日（火）～12月28日（月）

大学への 成績提供

- 共通 I D 取得者の志望大学からの請求に基づき、大学入試センターから各大学へ成績送付。
受験期間 A に受験した試験成績：令和2年9月以降 / 受験期間 B に受験した試験成績：令和2年11月以降
受験期間 C に受験した試験成績：令和3年2月以降

4

共通 I D 発行申込み

■ 申込対象

申込者区分	申 込 対 象
在学者	高等学校等を令和3年3月卒業見込みの者 例：令和元年11月時点で高等学校第2学年の者
卒業者	高等学校等を卒業した者 例：令和元年11月時点で高等学校第3学年の者
その他申込者	在学者及び卒業者以外で、以下のいずれかに該当する者 ア 「高等専門学校」第3学年を修了した者又は令和3年3月修了見込みの者 イ 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和3年3月31日までにこれに該当する見込みの者

※ 令和2年4月1日時点のもの（見込みを含む。）を想定

※ **共通 I D が発行されただけでは、大学入学共通テスト及び各大学の出願資格が保証されたことにはなりません。**

※ **別途、大学入学共通テスト及び各大学への出願が必要です。**

5

共通 I D 発行申込み

■ 申込方法

- 在学者（令和元年度高等学校第 2 学年の在学者）
ア 共通 I D 発行申込書 を学校経由で申込み
- 卒業者及びその他申込者
ア 共通 I D 発行申込書
イ 本人確認証明書 を個人で直接申込み

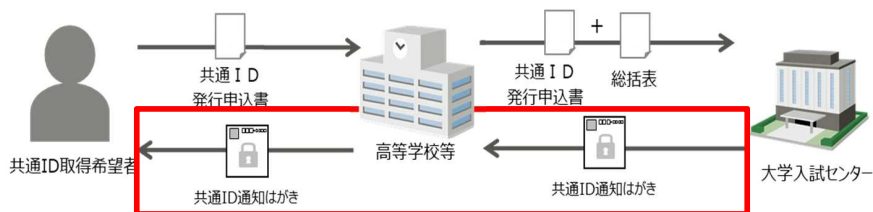
■ 令和元年度高等学校第 3 学年の在学者について

- 学校の判断により、個人直接申込み又は学校経由申込み
⇒ 学校経由の場合の申込期間は、
令和元年12月2日（月）～12月10日（火）（12月10日消印有効）

6

共通 I D 発行後（共通ID通知はがきの確認）

■ 共通 I D 通知はがきの受取り及び確認



集中発行申込間に申込みをした場合

令和 2 年 1 月中旬頃までに送付

追加発行申込期間に申込みをした場合

大学入試センター受取後、原則30日以内で送付

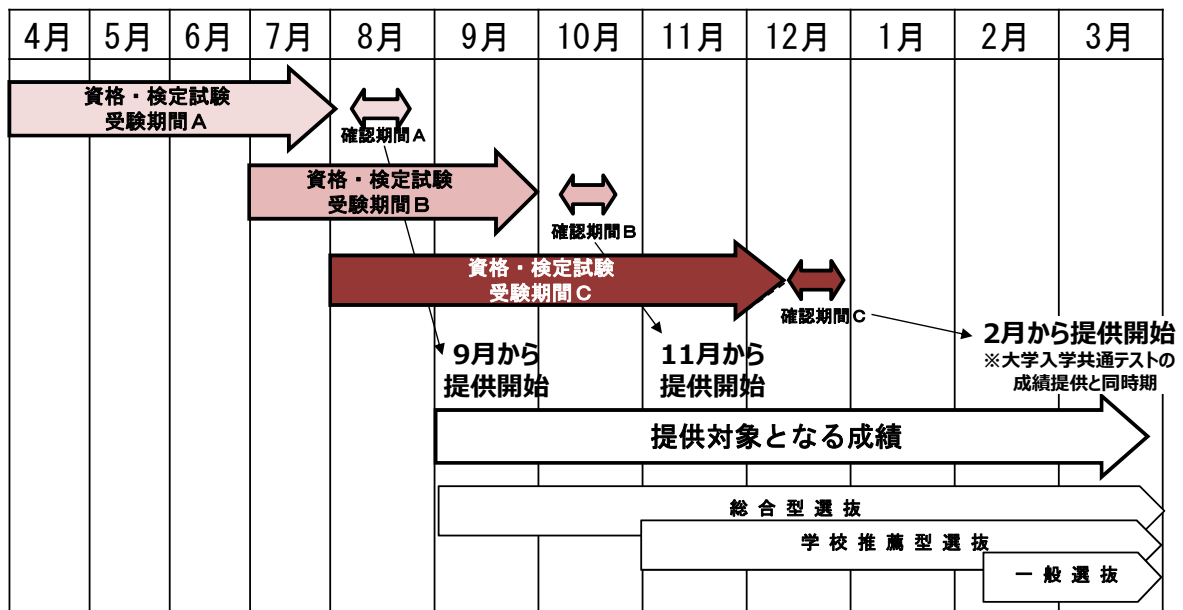
※ 令和元年高等学校第 3 学年の在学者について学校経由で申し込んだ場合は、
令和 2 年 2 月中旬頃までに本人に直接送付

- 高等学校等の在学者で学校経由で申し込んだ場合は、共通 I D 通知はがきは高等学校等に送付します。共通 I D 取得希望者は、高等学校等から配布されます。
- 令和元年度高等学校第 3 学年の在学者、通信制課程の在学者、卒業者及びその他申込者の場合は、本人に直接送付します。
- 共通 I D 通知はがきに記載されている**共通 I D やパスワードは他の人に絶対に伝えない**
ください。

7

大学への成績請求・提供のスケジュール

- **大学を受験する年度の4月から12月の間に最大2回まで受験します。**
⇒「2回」は同種の試験でも、1回ずつ異なる試験でも可能です。
- 受験期間はA・B・Cあり、**各期間で大学への成績提供開始時期が異なります。**



8

※資格・検定試験によって、実施日から成績確定までにかかる日数が異なるため、同じ月でも異なる受験期間の扱いとなる場合があります。表中の受験期間（A・B・C）は一部重なっています。資格・検定試験の実施日ごとに、いずれの期間に該当するかを含めたスケジュールを、あらかじめ公開する予定です。

成績提供システムを通じて大学へ提供される項目等

大学へ提供される項目	提供の有無
総合スコアのC E F R段階別表示	全資格・検定試験について提供 ※
総合スコア	全資格・検定試験について提供
4技能別のC E F R段階別表示	一部の資格・検定試験について提供
4技能別のスコア	一部の資格・検定試験について提供
可否	一部の資格・検定試験について提供

※一部の資格・検定試験では、障害等への配慮によって技能別の免除があった場合にCEFR段階別表示が算出されないものがあります。

9

(登録できる成績の) 例外措置

■ 例外措置区分と内容

例外措置区分	措置内容 ※詳細は「共通ID発行申込案内」を必ず確認してください。
(1) 経済配慮	<p>条件 (①・②・③の全てを満たしていること)</p> <p>①以下のいずれかであること</p> <p style="margin-left: 20px;">i) 経済配慮の対象者：資格・検定試験における受験料減免配慮を申請し認められた者</p> <p style="margin-left: 20px;">ii) 離島・へき地在住等の対象者：「共通ID発行申込案内」p.68～に示す高等学校等に在学する者等</p> <p>②高等学校第2学年でC E F R対照表におけるB2以上に該当する成績を取得していること</p> <p>③例外措置申請時点の受験期間までに共通IDを利用した受験をしていないこと</p>
(2) 離島・へき地 在住等	<p>措置内容</p> <p>高等学校第3学年の受験期間における成績2回分に代えて、高等学校第2学年で共通IDを用いずに受験した資格・検定試験の成績1回分を大学入試英語成績提供システムに登録できる。</p>
(3) 入院等配慮	<p>条件 (①・②の両方を満たしていること)</p> <p>①令和2年4月1日から12月1日までに、病院への入院期間が通算90日以上であること</p> <p>②例外措置申請時点の受験期間までに共通IDを利用した受験が2回未満であること</p> <p>措置内容</p> <p>前年度に共通IDを用いずに受験した資格・検定試験の成績1回分を当年度の1回分の成績として大学入試英語成績提供システムに登録できる。(例外措置「(4)海外在住」や当年度の試験との組み合わせ可)</p>
(4) 海外在住	<p>条件 (①・②の両方を満たしていること)</p> <p>①令和2年4月1日から12月1日までの間で、日本国外に通算120日以上在住していること</p> <p>②例外措置申請時点の受験期間までに共通IDを利用した受験が2回未満であること</p> <p>措置内容</p> <p>当年度の受験期間内に海外で受験した資格・検定試験の成績を大学入試英語成績提供システムに登録できる。(2回分の登録、例外措置「(3)入院等配慮」や国内で受験した試験との組み合わせ可)</p>

(登録できる成績の) 例外措置

■ 申請期間

- 例外措置の適用を希望する場合は、**共通ID取得後**に以下の申請期間内に申請してください。

例外措置区分	申請期間 ※最終日は消印有効
(1) 経済配慮	ア 受験期間Aとして申請する場合 令和2年4月15日(水)～5月15日(金)
(2) 離島・へき地 在住等	イ 受験期間Bとして申請する場合 令和2年8月28日(金)～9月17日(木) ウ 受験期間Cとして申請する場合 令和2年11月17日(火)～12月7日(月)
(3) 入院等配慮	ア 受験期間Bとして申請する場合 令和2年8月28日(金)～9月17日(木)
(4) 海外在住	イ 受験期間Cとして申請する場合 令和2年11月17日(火)～12月7日(月)

※ **例外措置区分「(3)入院等配慮」及び「(4)海外在住」については、受験期間Aとして申請することはできません。**

(登録できる成績の) 例外措置

■ 申請方法

- 在学者（令和2年度高等学校第3学年在学者）
 - ア 例外措置申請書
 - イ 対象となる資格・検定試験の成績証明書（原本）を学校経由で申請

 - 卒業生（令和元年度高等学校第3学年在学者を含む。）及びその他申込者
 - ア 例外措置申請書
 - イ 対象となる資格・検定試験の成績証明書（原本）
 - ウ 例外措置区分ごとの必要書類（必要な場合のみ）を個人で申請
- ※ 在学者については、各例外措置の対象者であることを証明するための「**例外措置区分ごとの必要書類**」を大学入試センターに提出する必要はありませんが、**各高等学校等において例外措置の対象者であることを確実に確認の上、申請してください。**
- ※ **一度申請した例外措置の取消しや変更はできません**ので注意してください。

12

大学の公表情報で確認すべきポイント

①「大学入試英語成績提供システム」利用の有無

英語の資格・検定試験を利用する選抜において、大学入試センターの「大学入試英語成績提供システム」の利用について、学部・選抜ごとに定めているので、確認すること。

②資格・検定試験の選択

当該大学入学者選抜を志願するに当たって、どの資格・試験を受験する必要があるのか、またその成績の取扱い等について、学部・選抜ごとに定めているので、確認すること。

13

大学の公表情報で確認すべきポイント

③資格・検定試験実施日の選択

資格・検定試験の成績は、総合型選抜、学校推薦型選抜及び一般選抜のそれぞれの出願締切日までに大学に提供可能となる必要があるため、大学入試センターから大学への成績提供開始時期に間に合うよう、選抜方法ごとに指定する資格・検定試験の受験期間に受験すること(以下の「各選抜方法で指定する資格・検定試験の受験期間」参照)。

各資格・検定試験の個別の実施日がどの受験期間に該当し、成績の提供がいつから開始されるのかについて、各実施主体が毎年公表するスケジュールで確認すること。

【各選抜方法で指定する資格・検定試験の受験期間】(例)

総合型:受験期間A (令和2(2020)年9月から提供開始)

学校推薦型:受験期間A・B (令和2(2020)年11月から提供開始)

一般:受験期間A・B・C(令和3(2021)年2月から提供開始)

14

「大学入試英語成績提供システム」に関するお問い合わせ先

志願者問合せ専用電話 (大学入試センター)

TEL : 0570-024-550 (ナビダイヤル)

上記ナビダイヤルが繋がらない方 : 03-3465-8600

9:30~17:00

(土・日曜、祝日※、12月29日~1月3日を除く)

※ 提供される資格・検定試験の成績の確認期間を除く。

各資格・検定試験の実施概要（2019年8月時点）

資格・検定試験の名称	目的・特長	既存の検定との違い	検定料	受験対象者	申込方法	出題形式	
ケンブリッジ英語検定	A2 Key	<ul style="list-style-type: none"> 「実生活のさまざまな局面で、コミュニケーションのために英語をどのように使うことができるか」を評価。 世界中の教育機関や企業、政府から高い評価を受けており、受検者は年間250万人。 対面ベア型による「伝えること」を重視したインタラクティブなスピーキング試験。 	既存の検定との違いはない。	9,000円(税別) 経済的困難者向けの検定料は検討中	1) 共通IDを記入した高校3年生及び既卒者 ケンブリッジ英語検定は、一般財団法人日本ケンブリッジ英語検定機構と、複数の認定試験センターが実施しています。大学入試英語成績提供システムで成績結果を活用できるのは、一般財団法人日本ケンブリッジ英語検定機構主催の試験のみとなります。 2) 誰でも受験が可能 認定試験センター（河合塾、Z会ソリューションズ等）主催のケンブリッジ英語検定 これらの認定試験センターが主催するケンブリッジ英語検定の成績結果は、大学入試英語成績提供システムに登録されません（共通IDの入力も不要）。なお、各認定試験センター主催試験で得た成績結果は、大学入試英語成績提供システム以外で活用することができます（大学入試英語成績提供システムに参加していない大学の個別入試など）。	・公開試験は、個人が専用ウェブサイトにより申し込む。 ・団体受検の場合は、団体（学校単位）にて専用ウェブサイトにより団体受検を申し込む。	RLW:PBT, S: 対面式（ベア型）
	A2 Key for Schools			11,000円 経済的困難者向けの検定料は検討中			
	B1 Preliminary			18,500円 経済的困難者向けの検定料は検討中			
	B1 Preliminary for Schools			20,500円 経済的困難者向けの検定料は検討中			
	B2 First			23,500円 経済的困難者向けの検定料は検討中			
	B2 First for Schools						
	C1 Advanced						
C2 Proficiency							
IELTS (IDP: IELTS Australia) 対象：「アカデミック・モジュール」	英語を使用する環境に必要な英語運用能力を測定する。 大学入試英語成績提供システムで利用されるアカデミックモジュールのIELTSは、英語の教育環境に必要な英語力を評価するため、国内外の高等教育機関で入学時の英語力判定に利用されている。	特になし	通常25,380円（税込） 経済的困難者向けの検定料は検討中	誰でも受験が可能（※ IELTSは16歳以上の受験を推奨しています）	・個人が専用ウェブサイトより申し込む。	RLW:PBT S:対面式	
IELTS (British Council) 対象：「アカデミック・モジュール」	<ul style="list-style-type: none"> 国内：100以上の大学の入試で活用 国外：10,000以上の機関が認定 						
TOEFL iBTテスト	【目的】 高等教育機関において英語を用いて学業を修めるのに必要な英語力を有しているかを測ることを目的とする。 【特長】 英語をどれだけ「知っているか」ではなく、「使えるか」に焦点をあて、より実生活に即したコミュニケーション能力を測定する世界基準の英語能力試験。150か国、10,000以上の団体が入学選考等で英語力の証明として同テストを利用。 ※下記TOEFLテスト公式WebサイトページではTOEFL iBTテストの特長などを日本語で説明。またサンプル問題や勉強法などのリンク先も掲載されている。 https://www.ets.org/jp/toefl/ibt/about/content/	既存のTOEFL iBTテストと同じ試験を実施するため違いはない。	235 U S ドル ※見直しの可能性有 経済的困難者は15%減額	誰でも受験が可能	・個人がTOEFLテスト公式Webサイト (https://www.ets.org/toefl) 上で個人アカウントページ (My TOEFL Home) を作成の上、同ページから受験申込を行う。	RLWS:CBT	
GTEC	Advanced	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使うことができるかのコミュニケーション力（運用力）を絶対評価型スコアにより測定 大学入試で一般・推薦・AO入試と幅広く活用されています 以下のURLよりサンプル問題をご覧ください (https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/question/) 	<ul style="list-style-type: none"> 試験監督および試験会場は弊社手配となります。 試験の難易度や採点基準については、既存の検定との違いはありません。 	6,700円(8%税込) 経済的困難者向けの検定料については検討中	申込時に共通IDを入力した高校3年生及び既卒者	・個人が専用ウェブサイトにより申し込む。	LRW:PBT, S:CBT
	Basic						
	Core						
GTEC CBT	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使うことができるかのコミュニケーション力（運用力）を絶対評価型スコアにより測定 大学入試で一般・推薦・AO入試と幅広く活用されています 以下のURLよりサンプル問題をご覧ください (https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/question/) 	既存の検定との違いはありません。	9,720円(8%税込) 経済的困難者向けの検定料については検討中	誰でも受験が可能	・個人が専用ウェブサイトにより申し込む。	LRSW:CBT	
TEAP	EFL環境の大学で行われる授業等で行う言語活動において英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する。 ・全国201大学が活用（2019年2月現在）	特になし	15,000円（税込） 経済的困難者向けの検定料につきましては、今後何か公表できる内容があれば、ウェブサイトにてご案内致します。	・高校1年生以上	・個人が専用ウェブサイトより申し込む。 ※TEAP団体専用クーポン利用型申込あり (受験申し込み手続きを受験者個人が行い、受験料の全額、または一部を学校（団体）にお支払いいただく方式)	RL : PBT W : PBT S : 対面式	
TEAP CBT	ICTを活用した出題を行い、EFL環境の大学で行われる授業等で行う言語活動において、英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する。 ・全国116大学が活用（2019年2月現在）	特になし	15,000円（税込） 経済的困難者向けの検定料につきましては、今後何か公表できる内容があれば、ウェブサイトにてご案内致します。	・高校1年生以上	・個人が専用ウェブサイトより申し込む。	RL : CBT W : CBT S : CBT（吹き込み）	
英検CBT 準1級～3級の4グレード B2～A1	準1級	<ul style="list-style-type: none"> 英語圏における社会生活（日常・アカデミック・ビジネス）に必要な英語を理解し、使うことができるかを評価する。 大学入試において約380大学が活用。海外留学において約370の海外大学が認定。 	<ul style="list-style-type: none"> RLWSはPBTではなく、全てCBT方式で実施。（Sは対面式ではなく、吹き込み） その他、問題形式、難易度、級認定、CSEスコアの取得、一次試験免除資格の付与等、すべて従来型の英検と違いはない。（ただし、一次試験免除資格での受験は不可） 	9,800円（税込） 経済的困難者向けの検定料につきましては、今後何か公表できる内容があれば、ウェブサイトにてご案内致します。以下、英検全級及び方式については同様	・制限なし	・個人が専用ウェブサイトより申し込む。 ・毎月実施する試験ごとに申込を受け付ける。	S : CBT（吹き込み） LRW : CBT
	2級			7,500円（税込）			
	準2級			6,900円（税込）			
	3級			5,800円（税込）			
	英検2020 1 day S-CBT 準1級～3級の4グレード B2～A1			<ul style="list-style-type: none"> Sは対面式ではなく、CBT（吹き込み）方式で実施。 その他、問題形式、難易度、級認定、CSEスコアの取得、一次試験免除資格の付与等、全て従来型の英検と違いはない。（ただし、一次試験免除資格での受験は不可） 			
英検2020 2 days S-Interview 1級～3級の5グレード C1～A1	1級	<ul style="list-style-type: none"> 実施方式は、従来型の英検と違いはない。 対象受験者は、高校3年生・既卒生の内、CBT方式では対応することのできない、吃音者を含む、点字やテロップ、筆談等の合理的配慮が必要な障がいのある方向けとする。 	16,500円（税込） 9,800円（税込） 7,500円（税込） 6,900円（税込） 5,800円（税込）	・高校3年生、及び既卒生のうち、CBTでは対応できない吃音者を含む、点字・テロップ・筆談等の合理的配慮が必要な障がいがある受験生で、共通IDを利用して受験する方	・個人が専用ウェブサイトより申し込む。 ・「予約申込」と「本申込」の2ステップが必要。「予約申込」をされた方の席数は必ず確保され、「本申込」の際に受験会場を選択いただく。	RWL : PBT S : 対面式	
	準1級						
	2級						
	準2級						
	3級						

<留意事項>

- ・本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。今後も最新の情報に更新してまいります。
- ・用語の説明 R : Reading, L : Listening, W : Writing, S : Speaking PBT : 紙による出題形式 CBT : コンピュータによる出題形式
- ・ケンブリッジ英語検定のA2 Key/for Schools, B1 Preliminary/for Schoolsは2020年1月以降改訂後の情報を反映。
- ・従来型の英検は、一次試験（書く、読む、聞く）の合格者のみが二次試験（話す）を受験できる仕組みとなっており、1回の試験で英語4技能を評価する試験となっていないため、本システムの参加試験とはなっていません。

資格・検定試験の名称	CBT方式の受験方法	時間(分)				配点(点)				実施・運営方法	
		R	L	W	S	R	L	W	S		
ケンブリッジ英語検定	A2 Key	該当なし	60 (R&W)	約30	60 (R&W)	約8	150	150	150	150	<ul style="list-style-type: none"> ・公開試験は、第三者に運営を委託し、第三者が提供する公開会場において開催。 ・団体受験については、高校会場を利用するが、教職員は鍵の開錠・施錠のみ。 ・試験問題については、会場に当日配送・当日回収。
	A2 Key for Schools		60 (R&W)	約30	60 (R&W)	約8	150	150	150	150	
	B1 Preliminary		45	約30	45	約12	170	170	170	170	
	B1 Preliminary for Schools		45	約30	45	約12	170	170	170	170	
	B2 First		75	約40	80	約14	190	190	190	190	
	B2 First for Schools		75	約40	80	約14	190	190	190	190	
	C1 Advanced		90	約40	90	約15	210	210	210	210	
C2 Proficiency		90	約40	90	約16	230	230	230	230		
IELTS (IDP: IELTS Australia) 対象：「アカデミック・モジュール」	該当なし	60	40	60	11～14	各技能につき、0～9(0.5刻み)				各地域を管轄するIDP公式テストセンターにより実施・運営される。北海道、東北、関東、北陸、中部、関西、中国エリアの一部(岡山、広島)のエリアでは主に大学を会場として利用することを予定。山口県、九州エリア、沖縄においては実施団体のキャンパスを会場として使用	
IELTS (British Council) 対象：「アカデミック・モジュール」	該当なし	60	30	60	11～14					プリティッシュ・カウンシルと英検協会の管理の下、テストセンターや大学等の教育期間で実施。	
TOEFL iBTテスト	全セクションをコンピュータ上で受験。 ・Reading：コンピュータ画面に表示される問題にマウスを使用し解答 ・Listening：マイク付ヘッドフォンを使用して音声を聞き、コンピュータ画面に表示される問題にマウスを使用し解答 ・Writing：マイク付ヘッドフォンを使用して音声を聞き、コンピュータ画面に表示される問題にキーボードを使用し回答をタイピングする ・Speaking：マイク付ヘッドフォンを使用して音声を聞き、コンピュータ画面に表示される問題にマイクを通じて回答を発話する	54～72	41～57	50	17	30	30	30	30	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者(プロメトリック株式会社)に委託し、TOEFL iBTテスト会場として登録されているテストセンターや大学等の教育機関で実施。 ・各テスト会場にはコンピュータ(受験者一人につき1台)を設置、問題の配信、解答の送信は全てインターネット経由で行われる。 	
GTEC	Advanced	・スピーキングについては、タブレット機器への吹き込み方式による回答	約45	約25	約25	約25	上限320	上限320	上限320	上限320	<ul style="list-style-type: none"> ・弊社意向調査の結果を踏まえ、公開会場を設置します。 ・弊社が手配する監督者が実施運営を行います。 ・試験問題については、会場に当日配付・当日回収。
	Basic		約45	約25	約25	約25	上限270	上限270	上限270	上限270	
	Core		約32	約20	約25	約25	上限210	上限210	上限210	上限210	
GTEC CBT	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディングについては、マウスによるクリック回答 ・リスニングについては、ヘッドセットを装着し、マウスによるクリック回答 ・ライティングについては、キーボードへの打ち込み方式による回答 ・スピーキングについては、ヘッドセットを装着し、吹き込み方式による回答 	約55	約35	約65	約20	上限350	上限350	上限350	上限350	<ul style="list-style-type: none"> ・テストセンターおよび弊社手配の公開会場を設置します。 ・弊社手配の監督者が実施運営を行います。 	
TEAP	・RLWSは全てPBT方式	70	50	70	10	100	100	100	100	・英検協会の管理の下、公開会場において実施。大学・高校等の教育機関を借用する可能性有り	
TEAP CBT	<ul style="list-style-type: none"> ・RLWSは全てCBT方式 ・Rは、マウスをクリックして解答します。 ・Lは、ヘッドセットで音声を聞き、マウスをクリックして解答します。 ・Wは、キーボードを使って解答を入力します。 ・Sは、ヘッドセットを使い、吹き込み形式で解答の音声を録音します。 	80	40	50	30	200	200	200	200	・英検協会の管理の下、テストセンターにおいて実施。大学等の教育機関を借用する可能性有り	
英検CBT 準1級～3級の4グレード B2～A1	準1級	<ul style="list-style-type: none"> ・RLWSは全てCBT方式 ・Rは、マウスをクリックして解答します。 ・Lは、ヘッドセットで音声を聞き、マウスをクリックして解答します。 ・Wは、キーボードを使って解答を入力します。 ・Sは、ヘッドセットを使い、吹き込み形式で解答の音声を録音します。 	90 (W含む)	30	-	15	750	750	750	750	・英検協会の管理の下、テストセンターにおいて実施。大学・高校等の教育機関を借用する予定は無い
	2級		85 (W含む)	25	-	15	650	650	650	650	
	準2級		75 (W含む)	25	-	15	600	600	600	600	
	3級		50 (W含む)	25	-	15	550	550	550	550	
英検2020 1 day S-CBT 準1級～3級の4グレード B2～A1	準1級	・SはCBT方式	90 (W含む)	30	-	15	750	750	750	750	・英検協会の管理の下、テストセンターにおいて実施。大学・高校等の教育機関を借用する予定は無い
	2級	・Sは、ヘッドセットを使い、吹き込み形式で解答の音声を録音します。	85 (W含む)	25	-	15	650	650	650	650	
	準2級		75 (W含む)	25	-	15	600	600	600	600	
	3級		50 (W含む)	25	-	15	550	550	550	550	
英検2020 2 days S-Interview 1級～3級の5グレード C1～A1	1級	該当なし	100 (W含む)	35	-	10	850	850	850	850	・英検協会の管理の下、全国の公開会場において実施。大学・高校等の教育機関を借用する可能性有り
	準1級		90 (W含む)	30	-	8	750	750	750	750	
	2級		85 (W含む)	25	-	7	650	650	650	650	
	準2級		75 (W含む)	25	-	6	600	600	600	600	
	3級		50 (W含む)	25	-	5	550	550	550	550	

<留意事項>

- ・本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。今後も最新の情報に更新してまいります。
- ・用語の説明 R：Reading, L：Listening, W：Writing, S：Speaking PBT：紙による出題形式 CBT：コンピュータによる出題形式
- ・ケンブリッジ英語検定のA2 Key/for Schools, B1 Preliminary/for Schoolsは2020年1月以降改訂後の情報を反映。
- ・従来型の英検は、一次試験(書く、読む、聞く)の合格者のみが二次試験(話す)を受験できる仕組みとなっており、1回の試験で英語4技能を評価する試験となっていないため、本システムの参加試験とはなっておりません。

資格・検定試験の名称		障害等のある受験生への合理的配慮	
		申請方法	成績表示方法
ケンブリッジ英語検定	A2 Key	Special Arrangements Form（特別手配フォーム）に身元が保証された医師による診断書を添付のうえ申請する。 ※（吃音を含む）発話に困難を伴う受験者については、必ずしも医師の診断書である必要はなく、医師の診断書に限らず、言語聴覚士等のリハビリテーション専門職による意見書、公認心理師等による意見書も医師の診断書同様の証明として扱わせて頂きます。	Q. 受検上の配慮として一部技能の免除を行った場合、どのように成績表示されるのか。総合スコアはどのように扱われるのか。 A. 一つの技能テスト（例：リスニングテスト）が免除になった場合、そのスキルの成績の箇所に「EXEMPT」と記載されます。受検上の配慮が講じられた場合は、認定証のグレードの横にXが付され、裏面にその旨補記されます。ただし、EXEMPT（免除）になった場合、Cambridge English スケールスコアは免除されたスキルテスト（例：リスニングテスト）以外（例：リーディング、ライティング、スピーキングテスト）の平均値で全体評価が求められます。「EXEMPT」免除により、全体評価にマイナスの影響が与えられることはありません。
	A2 Key for Schools		
	B1 Preliminary		
	B1 Preliminary for Schools		
	B2 First		
	B2 First for Schools		
	C1 Advanced		
C2 Proficiency			
IELTS (IDP: IELTS Australia) 対象：「アカデミック・モジュール」		IELTS公式テストセンターへ直接連絡を行う。詳細は https://www.ieltsjp.com/about-us/special-requirements/ なお、特別処置の対応には時間がかかる場合があり、（一部を除き）テスト6週間前までに申請が必要	免除された技能がある場合、成績証明書のコメント欄に免除された技能が記載される。免除された技能のスコアは残りの技能のスコアの平均スコアが表示される。
IELTS (British Council) 対象：「アカデミック・モジュール」		特別措置を御希望の方は受験希望日3ヶ月前までにテストセンターにメールにて診断書添付の上、受験希望の連絡を行う。	
TOEFL iBTテスト		・受験日の設定前（6週間以上前まで）に、ETS Disability Servicesに郵送又は電子メールで申請書を提出。 ・申請書の受領後、約6週間の審査を経て対応可の場合は承認書が送付される。 ※受験申込前に、必ずETS Disability Servicesに連絡し、承認を得る必要がある。 ※書類に不備がある場合（再提出が必要な場合）、書類の審査にさらに6週間かかるため、書類はできるだけ早く提出すること。	ETS発行のスコアレポートには受験した技能のスコアのみ表示される。なお「大学入試英語成績提供システム」を利用する場合のみ、受験した技能のスコアの合計点およびCEFRが表示される予定。
GTEC	Advanced	・試験申込手続き前かつ、各検定お申込み締切日の6週間前までに、申請書（医師の診断書も必要）を別途指定する方法で提出。 ・申請書の受領後、対応可否について、通常2週間以内に電話等にて連絡（その後、本申し込みは別途必要）。	一部技能免除の場合は、免除される技能以外で技能ごとのスコアを合算して平均し、免除される技能の仮スコアを算出する。
	Basic		
	Core		
GTEC CBT		・試験申込手続き前かつ、各検定お申込み締切日の6週間前までに、申請書（医師の診断書も必要）を別途指定する方法で提出。 ・申請書の受領後、対応可否について、通常2週間以内に電話等にて連絡（その後、本申し込みは別途必要）。	一部技能免除の場合は、免除される技能以外で技能ごとのスコアを合算して平均し、免除される技能の仮スコアを算出する。
TEAP		・特別措置をご希望の方は期日までに特別措置申請を行う。	・技能免除があった場合、その免除技能のスコアとCEFRレベルは提供されません（ハイフンとして表示されます）。ただし、総合スコアと総合CEFRレベルは提供されます（受験技能の合計スコアから算出します）。
TEAP CBT		・障がい等のある方への特別措置対応は、「TEAP（PBT）」にて承っている。 ・特別措置をご希望の方は期日までに特別措置申請を行う。	技能免除などは行わないため、成績表には合理的配慮に関する記載はない。
英検C B T 準1級～3級の4グレード B2～A1	準1級	申込時に特別措置申請を行う。	技能免除などは行わないため、成績表には合理的配慮に関する記載はない。
	2級		
	準2級		
	3級		
英検2020 1 day S-CBT 準1級～3級の4グレード B2～A1	準1級	予約申込時に特別措置申請を行う。 ※障がいの区分等によりCBT方式かS-Interviewで受験するかが変わります。予約申込時に診断書のご提出等をお願いし、英検協会が提携している合理的配慮に造詣の深い有識者の先生のご意見も伺いながら、受験者との協議のうえで決定します。	技能免除などは行わないため、成績表には合理的配慮に関する記載はない。
	2級		
	準2級		
	3級		
英検2020 2 days S-Interview 1級～3級の5グレード C1～A1	1級	予約申込時に特別措置申請を行う。 ※障がいの区分等によりCBT方式かS-Interviewで受験するかが変わります。予約申込時に診断書のご提出等をお願いし、英検協会が提携している合理的配慮に造詣の深い有識者の先生のご意見も伺いながら、受験者との協議のうえで決定します。	技能免除などは行わないため、成績表には合理的配慮に関する記載はない。
	準1級		
	2級		
	準2級		
3級			

<留意事項>

- ・本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。今後も最新の情報に更新してまいります。
- ・用語の説明 R：Reading, L：Listening, W：Writing, S：Speaking PBT：紙による出題形式 CBT：コンピュータによる出題形式
- ・ケンブリッジ英語検定のA2 Key/for Schools, B1 Preliminary/for Schoolsは2020年1月以降改訂後の情報を反映。
- ・従来型の英検は、一次試験（書く、読む、聞く）の合格者のみが二次試験（話す）を受験できる仕組みとなっており、1回の試験で英語4技能を評価する試験となっていないため、本システムの参加試験とはなっていません。

参加試験の2020年度実施日程についての公表内容【公表時期等】（2019年8月時点）

資格・検定試験の名称		2019（令和元年）				2020（令和2年）		
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ケンブリッジ英語検定 ※試験種類・日程により、設定される会場が異なります。また、実施地区は変更となる場合があります（2019年11月確定予定）。追加情報は順次公表 (https://www.cambridgefoundation.jp/)	A2 Key			試験日程 確定予定			申込開始（予定）	
	A2 Key for Schools							
	B1 Preliminary							
	B1 Preliminary for Schools							
	B2 First							
	B2 First for Schools							
	C1 Advanced							
	C2 Proficiency							
IELTS (IDP: IELTS Australia) 対象：「アカデミック・モジュール」				2020年4月～6月までの 申込を開始予定			2020年7月～9月までの申込を開始予定。（10月以降の申込は4月には開始予定）	
IELTS (British Council) 対象：「アカデミック・モジュール」								
TOEFL iBTテスト				試験日程公表予定				
GTEC	Advanced	2019年秋に2020年度の						
	Basic	実施内容詳細について公表予定						
	Core	※Advanced, Basic, Coreの各タイプの実施回、CBTタイプの実施日など						
GTEC CBT								
TEAP								
TEAP CBT								
英検 C B T		準1級～3級の4グレード						
英検2020 1-day S-CBT	準1級～3級の4グレード B2～A1	第1回検定 <u>予約申込</u> ウェブ申込（希望級等） 予約金3000円入金 予約金は、本申込時に希望級の検定料に割り当てられます。（返金不可）					第1回検定 <u>本申込</u> 第1回検定 詳細日程公表 【受験日時、会場、受験級、顔写真、ID登録】 検定料の入金（予約金との差額分）	
				第2回検定 <u>予約申込</u> ウェブ申込（希望級等） 予約金3000円入金 予約金は、本申込時に希望級の検定料に割り当てられます。（返金不可）		高3・既卒生向けの第2回予約申込 （3月下旬～4月上旬） 予約金3000円入金 予約金は、本申込時に希望級の検定料に割り当てられます。（返金不可）		
英検2020 2 days S-Interview	1級～3級の5グレード C1～A1 （CBT方式では対応することのできない合理的配慮が必要な障がい等のある受験者を対象とする）	第1回検定 <u>予約申込</u> ウェブ申込（希望級等） 予約金3000円入金 予約金は、本申込時に希望級の検定料に割り当てられます。（返金不可）					第1回検定 <u>本申込</u> 第1回検定 詳細日程公表 【受験会場、受験級、顔写真、ID登録】 検定料の入金（予約金との差額分）	
				第2回検定 <u>予約申込</u> ウェブ申込（希望級等） 予約金3000円入金 予約金は、本申込時に希望級の検定料に割り当てられます。（返金不可）				

<留意事項>

- ・本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。今後も最新の情報に更新してまいります。
- ・ケンブリッジ英語検定の日程欄について、※印は団体受検の実施可能日程（A2、B1は日程追加の予定）
- ・従来型の英検は、一次試験（書く、読む、聞く）の合格者のみが二次試験（話す）を受験できる仕組みとなっており、1回の試験で英語4技能を評価する試験となっていないため、本システムの参加試験とはなっていません。

参加試験の2020年度実施日程についての公表内容【試験日程】（2019年8月時点）

資格・検定試験の名称		2020（令和2年）										
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
ケンブリッジ英語検定 ※試験種類・日程により、設定される会場が異なります。また、実施地区は変更となる場合があります（2019年11月確定予定）。追加情報は順次公表 (https://www.cambridgefoundation.jp/)	A2 Key			6/13(土)						10/10(土)		
			※5/9(土),22(金)	※6/4(木),13(土)	※7/21(火)					※10/10(土)		
	A2 Key for Schools			6/28(日)				8/30(日)		10/25(日)		
		※4/5(日),12(日),18(土),19(日)	※5/9(土),10(日),16(土),23(土),30(土),31(日)	※6/6(土),28(日)	※7/12(日),25(土)	※8/8(土),23(日),30(日)				※10/17(土),25(日)		
	B1 Preliminary			6/13(土)						10/10(土)		
		※4/4(土),30(木)	※5/9(土),22(金)	※6/4(木),13(土)	※7/21(火)					※10/10(土)		
	B1 Preliminary for Schools			6/28(日)				8/30(日)		10/25(日)		
		※4/5(日),12(日),18(土),19(日)	※5/9(土),10(日),16(土),23(土),30(土),31(日)	※6/6(土),28(日)	※7/12(日),25(土)	※8/8(土),23(日),30(日)				※10/17(土),25(日)		
	B2 First			6/20(土)				8/27(木)				
		※4/18(土)	※5/16(土)	※6/6(土),9(火),20(土)	※7/30(木)	※8/27(木)				※10/10(土)		
	B2 First for Schools			6/21(日)				8/16(日)		10/18(日)		
		※4/25(土)	※5/9(土),17(日),21(木),23(土),27(水)	※6/6(土),21(日),27(土)	※7/25(土)	※8/16(日)	※9/26(土)			※10/18(日)		
	C1 Advanced		5/30(土)					8/28(金)				
		※4/18(土)	※5/9(土),16(土),30(土)	※6/10(水),20(土)	※7/11(土),31(金)	※8/28(金)	※9/12(土)			※10/17(土),31(土)		
C2 Proficiency		5/9(土),5/17(日)										
		※5/9(土),17(日)	※6/12(金)									
IELTS (IDP: IELTS Australia) 対象：「アカデミック・モジュール」	4/4(土),11(土),18(土)	5/9(土),16(土),30(土)	6/6(土),13(土),20(土)	7/11(土),18(土),25(土)	8/8(土),22(土),29(土)	9/5(土),12(土),26(土)	10/10(土),24(土),31(土)			※11月も試験は3回行われるが、11/7までに受験推奨		
IELTS (British Council) 対象：「アカデミック・モジュール」	4/4(土),11(土),18(土)	5/9(土),16(土),30(土)	6/6(土),13(土),20(土)	7/11(土),18(土),25(土)	8/8(土),22(土),29(土)	9/5(土),12(土),26(土)	10/10(土),24(土),31(土)			※11-12月の日程は、決定次第お知らせ		
TOEFL iBTテスト	4月～11月に計28回（各月2～5回）程度実施予定											

資格・検定試験の名称		2020（令和2年）								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
GTEC	Advanced			第1回：6/14(日) 受験期間Aとして成績連携	第2回：7/19(日) 受験期間Bとして成績連携			第3回：10/4(日) 受験期間Cとして成績連携	第4回：11/1(日) 受験期間Cとして成績連携	
	Basic			※当回で実施する	※当回で実施する			※当回で実施する	※当回で実施する	
	Core			Advanced, Basic, Core のタイプ種別については 2019年秋に公表予定	Advanced, Basic, Coreのタイプ種別 については2019年秋に 公表予定			Advanced, Basic, Coreのタイプ種別 については2019年秋に 公表予定	Advanced, Basic, Coreのタイプ種別 については2019年秋に 公表予定	
GTEC CBT		実施日については、2019年秋に公表予定								
TEAP					7/12（日）			9/6（日）		11/22（日）
TEAP CBT				6/7（日）		8/16（日）		10/25（日）		
英検C B T	準1級～3級の4グレード	4/19（日）	5/17（日）	6/21（日）	7/23（木・祝）	8/23（日）	9/13（日）	10/18（日）	11/23（月・祝）	
英検2020 1-day S-CBT	準1級～3級の4グレード B2～A1	第1回検定 4～7月のいずれか（各検定各1回まで） ※原則、土日・祝日の日中、又は平日夜に実施予定 ※申込みの多い都道府県については実施日、実施回数を増やす予定								
				第2回検定 本申込 第2回検定詳細日程公表 【受験日時、会場、受験級、顔写真、ID登録】 検定料の入金（予約金との差額分）		第2回検定 8～11月のいずれか（各検定各1回まで） ※原則、土日・祝日の日中、又は平日夜に実施予定 ※申込みの多い都道府県については実施日、実施回数を増やす予定				
英検2020 2 days S-Interview	1級～3級の5グレード C1～A1 （CBT方式では対応することのできない合理的配慮が必要な障がい等のある受験者を対象とする）		第1回検定 【RLW試験】 5/31（日）	第1回検定 【S試験】 6/28（日）						
				第2回検定 本申込 第2回検定詳細日程公表 【受験会場、受験級、顔写真、ID登録】 検定料の入金（予約金との差額分）			第2回検定 【RLW試験】 10/11（日）	第2回検定 【S試験】 11/8（日）		

<留意事項>

- ・本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。今後も最新の情報に更新してまいります。
- ・ケンブリッジ英語検定の日程欄について、※印は団体受験の実施可能日程（A2、B1は日程追加の予定）
- ・従来型の英検は、一次試験（書く、読む、聞く）の合格者のみが二次試験（話す）を受験できる仕組みとなっており、1回の試験で英語4技能を評価する試験となっていないため、本システムの参加試験とはなっていません。

試験監督の考え方

試験名	①会場ごとの実施責任者はどのような人か。	②各室ごとの試験監督責任者はどのような人か。	③左記(①②)以外の試験実施協力者に受験生の所属高等学校の教職員が含まれているか。	④教職員が含まれている場合、どのような業務を担当するのか。
ケンブリッジ英語検定	<ul style="list-style-type: none"> ・実施主体の職員又は委託事業者 ・試験監督の経験豊富で、責任者として適格と任命された者 ・高等学校の教職員は含まれていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施主体又は委託事業者からの派遣スタッフで、研修を受けた者 ・高等学校の教職員は含まれていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の開錠、施錠等
IELTS (IDP:IELTS Australia)	<ul style="list-style-type: none"> ・試験監督の熟練者であり、研修を受け、服務規程や保守義務に関わる保証宣言に署名した者 ・実施団体の職員 ・高等学校の教職員は含まれていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を受け、服務規程や保守義務に関わる保証宣言に署名した者。 ・実施団体の職員 ・高等学校の教職員は含まれていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・含まれる場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の開錠、施錠 ・音響機材の事前の動作確認 ・試験会場付近への立ち入り禁止の周知
IELTS (British Council)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を受け、試用期間を経たうえ、十分にテスト実施責任者として認められた者 ・実施主体の職員又は共同試験実施団体の職員(日本英語検定協会) ・高等学校の現役教職員は含まれていない。 ・受験生の親族や友人であってはならない。 ・18歳未満の未成年者に対応するBritish Council; のトレーニング終了しテストに合格したもの ・機密保持と利益誘導禁止に関する契約書に合意したもの ・B2以上の英語力を有する者 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を受け、試用期間を経たうえ、試験監督者として業務が行えると認められた者 ・業務委託業者からの派遣スタッフ ・高等学校の現役教職員は含まれていない。 ・受験生の親族や友人であってはならない。 ・18歳未満の未成年者に対応するBritish Council; のトレーニング終了しテストに合格したもの ・機密保持と利益誘導禁止に関する契約書に合意したもの ・B2以上の英語力を有する者 	<ul style="list-style-type: none"> ・含まれる場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の開錠、施錠 ・音響機材の事前の動作確認 ・試験会場付近への立ち入り禁止の周知
TOEFL iBTテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・試験監督員研修受講後、試験監督員認定試験を受験し、合格した者 ・委託業者又は試験実施会場のスタッフ 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験監督員研修受講後、試験監督員認定試験を受験し、合格した者 ・委託業者又は試験実施会場のスタッフ 	<ul style="list-style-type: none"> 含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験日前に使用PCチェック(Readiness Check) ・試験当日PCチェック ・チェックイン業務(ID確認、本人認証) ・監視、トラブル時の対応、レポート作成 ・プロクター(試験補助監督)への指示 ・試験実施責任者の補助 ・受付 ・IDチェック ・監視(不正チェック)等
GTEC	<ul style="list-style-type: none"> ・弊社の社員、雇用者、委託事業者(各種団体含む)で、弊社から適切な研修を受け、訓練された者 ・弊社が規定する誓約内容に合意できる者 	<ul style="list-style-type: none"> ・弊社の社員、雇用者、委託事業者(各種団体含む)で、弊社から適切な研修を受け、訓練された者 ・弊社が規定する誓約内容に合意できる者 	<ul style="list-style-type: none"> ・含まれる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の開錠、施錠 ・音響機材の事前の動作確認 ・試験会場付近への立ち入り禁止の周知

試験名	①会場ごとの実施責任者はどのような人か。	②各室ごとの試験監督責任者はどのような人か。	③左記(①②)以外の試験実施協力者に受験生の所属高等学校の教職員が含まれているか。	④教職員が含まれている場合、どのような業務を担当するのか。
TEAP	<ul style="list-style-type: none"> 協会職員、または協会が契約を締結して試験実施業務を委託している委託事業者。 高等学校の教職員は含まれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 協会が雇用したアルバイトで、事前・試験当日等の研修を受け、協会の定めた各種規則に同意した方。 委託事業者からの派遣スタッフ。 高等学校の教職員は含まれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 含まれている可能性はある。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験会場によるが、高校を借用した場合には会場の開錠と施錠。 Examiner(スピーキングテストの面接官)。ただし、Examinerの所属先と受験者の所属校情報を事前に収集、確認の上、所属校の生徒の面接試験を行わないように管理、手配する。
TEAP CBT	<ul style="list-style-type: none"> 協会職員、または協会が契約を締結して試験実施業務を委託している委託事業者。 高等学校の教職員は含まれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 協会が雇用したアルバイトで、事前・試験当日等の研修を受け、協会の定めた各種規則に同意した方。 委託事業者からの派遣スタッフ。 高等学校の教職員は含まれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 含まれていない。 	—
英検CBT	<ul style="list-style-type: none"> 協会職員、または協会が契約を締結して試験実施業務を委託している委託事業者。 高等学校の教職員は含まれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 協会が雇用したアルバイトで、事前・試験当日等の研修を受け、協会の定めた各種規則に同意した方。 委託事業者からの派遣スタッフ。 高等学校の教職員は含まれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 含まれていない。 	—
英検2020 1 day S-CBT	<ul style="list-style-type: none"> 協会職員、または協会が契約を締結して試験実施業務を委託している委託事業者。 高等学校の教職員は含まれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 協会が雇用したアルバイトで、事前・試験当日等の研修を受け、協会の定めた各種規則に同意した方。 委託事業者からの派遣スタッフ。 高等学校の教職員は含まれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 含まれていない。 	—
英検2020 2 days S-Interview	<ul style="list-style-type: none"> 協会職員、または協会が契約を締結して試験実施業務を委託している委託事業者。 上記を基本とするが、S-Interviewは合理的な配慮が必要な障がい等のある受験者を対象とし、受験者の障がい等の状況に応じて全国約400の試験会場の中の特別措置に適した会場で実施を行うため、その会場によっては、既に従来型英検の実施委員経験のある高等学校の教職員にご協力をお願いする可能性もある。ただし、その場合にはご本人等の同意はもちろんのこと、受験者の所属校と同じ方を実施委員としないといった配慮を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 協会が雇用したアルバイトで、事前・試験当日等の研修を受け、協会の定めた各種規則に同意した方。 委託事業者からの派遣スタッフ。 上記を基本とするが、S-Interviewは合理的な配慮が必要な障がい等のある受験者を対象とし、受験者の障がい等の状況に応じて全国約400の試験会場の中の特別措置に適した会場で実施を行うため、その会場によっては、既に従来型英検の実施委員経験のある高等学校の教職員の補佐役として高等学校の教職員に特別措置対応の監督者のご協力をお願いする可能性もある。ただし、その場合にはご本人等の同意はもちろんのこと、受験者の所属校と同じ方を配置としないといった配慮を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 含まれている可能性はある。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験会場によるが、高校を借用した場合には会場の開錠と施錠。 面接委員(スピーキングテストの面接官)。ただし、面接委員の所属先と受験者の所属校情報を事前に収集、確認の上、所属校の生徒の面接試験を行わないように管理、手配する。

※本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。

採点の質を確保するための方策(ライティング)

試験名	採点者の応募資格	採点者の選出基準	採点者の質の向上策	採点体制
ケンブリッジ英語検定	原則、スピーキング試験官に必要なとされる資格要件と同じ	英国のケンブリッジ本部にて、採用、導入トレーニング、本トレーニング、採点スキル検定を含むライティング採点官のための完全質保証プロセスが構築されている。	英国のケンブリッジ本部にて実施。 ・高機能オンライン評価システム:ライティング用オンラインスクリプトを採点し、採点スキルを認証する質保証システム。採点スキル検定を実施。質保証管理の一環。 ・オンライン評価者システム:採点官が特定の受験者、言語グループ、出身国等に偏らないようシステムでランダムに選出される仕組みで管理。採点官の採点結果についても質と一貫性担保の観点からモニタリングを実施。	日本の試験センターが採点することは一切ありません。 英国のケンブリッジ本部にて、一元管理。
IELTS	<p><資格>学士号又は修士号保持者かつTEFL/TESOLなどの有資格者</p> <p><英語教授歴>16歳以上の英語を母国語としない学習者を対象とする英語指導歴3年以上またはそれに相当する指導歴を有する</p> <p><人間性、対人スキル>面接などにより基準を満たした人物であること</p>	・面接・トレーニング・試験の結果が世界共通基準を上回り、かつ採点者として公平かつ正確に言語能力を測定することができると判断されたもの	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得後も適宜トレーナーによるモニタリングを実施し、必要に応じて補習、研修などのサポートを提供しているため、世界標準に則した採点の質を担保している。 ・資格は2年に1度、研修受講後に更新試験を受け、合格した場合のみ採点官の資格更新ができる。 ・資格取得後であっても採点官として適性がないと判断に至った場合、直ちに資格を停止し、場合によっては試験官としての資格を再度得る権利も失う。 ・採点官は規定に従い、期間が開くことなく定期的に採点を行い、採点基準への理解を深め、質を一定に保っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公平性を保つために、複数名で採点の整合性を担保するシステムが世界的に確立している。 ・ライティングの採点は出題ごとに異なる採点者により採点される。 ・必要に応じて上級採点官によりモニタリングを受ける。
TOEFL iBTテスト	学士もしくはそれ以上の学位を取得し、高校、大学、または成人学習においてESL教育経験を持つ者	ETSの採点者トレーニングを受け試験に合格すること	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、採点当日に行われるチェックテストに合格しなければ採点は行えない。 ・採点リーダーが、常に各採点者の採点の正確性について監視している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・採点は、スコアの安全性や整合性を保証するため、テスト実施国・地域ごとではなく、採点ネットワークを通じて一元的に行われる。 ・採点者と自動スコアリングシステムの併用 ・受験者の出身国限定ではなく、多様な採点者で構成。 ・客観的な採点を行うため、回答以外の受験者の情報は採点者に提供されない。
GTEC	英語力と採点力を見極める独自の筆記試験および面接等を課し、ベネッセが定める選定評価基準に合格できた者。	英語力と採点力を見極める独自の筆記試験および面接等を課し、ベネッセが定める選定評価基準に合格できた者のみ選抜。更に研修を行い、修了テストで合格した者を選抜。	採点者個々に対し、定期的にベネッセの基準作成者・品質管理者が直接トレーニングや採点品質チェックを行い、モニタリングを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・採点センター内では、採点者、採点リーダー、採点監督者、品質管理者など品質担保が可能な組織体制を構築。 ・常に1つの解答を2名で採点。採点が異なる場合は上位の採点者が採点を確定する方式を採用。このことにより、公平・公正な採点を担保している。

試験名	採点者の応募資格	採点者の選出基準	採点者の質の向上策	採点体制
TEAP	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	<ul style="list-style-type: none"> 各回次で実際に出題する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 予め基準となる評点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 基準との差異が大きくない場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。 	採点を2名で行い、採点結果に差があった場合は、採点経験が豊富な採点者による再採点を行う。
TEAP CBT	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	<ul style="list-style-type: none"> 各回次で実際に出題する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 予め基準となる評点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 基準との差異が大きくない場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各受験者の解答を出題される問題単位で分割し、複数の採点者に割り当てて採点を行う。 各受験者の答案は最低2名で採点し、2名の採点結果に大きな差異があった場合は、採点経験が豊富な採点者による再採点を行う。
英検CBT	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	<ul style="list-style-type: none"> 各回次で実際に出題する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 予め基準となる評点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 基準との差異が大きくない場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。 	基準に基づき必要と判断された答案には、採点経験が豊富な採点者による再採点を行う。
英検2020 1 day S-CBT	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	<ul style="list-style-type: none"> 各回次で実際に出題する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 予め基準となる評点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 基準との差異が大きくない場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。 	基準に基づき必要と判断された答案には、採点経験が豊富な採点者による再採点を行う。
英検2020 2 days S-Interview	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	<ul style="list-style-type: none"> 各回次で実際に出題する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 予め基準となる評点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 基準との差異が大きくない場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。 	基準に基づき必要と判断された答案には、採点経験が豊富な採点者による再採点を行う。

※本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。

採点の質を確保するための方策(スピーキング)

試験名	採点者の応募資格	採点者の選出基準	採点者の質の向上策	採点体制	面接者の応募資格 (対面式のみ)	面接者の選出基準 (対面式のみ)
ケンブリッジ英語検定	<p>スピーキング試験官(以下、SE)の主な資格要件(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則学士号を有していること ・教授資格(TESOL等)を有していること ・指導歴3年(1,800時間)以上で指導現場から離れていないこと* *卓越した指導歴を保證する推薦状など、学士号、教授資格のいずれかを有していなくとも可能な場合あり <p>・英語が非母語話者(Non-native)の場合、評価するレベルより2つ以上のCEFRレベルの英語力を有していることも要件の一つ 例)A2 Keyの場合はB2以上、B1 Preliminaryの場合はC1以上の英語力を有していることが条件</p> <p>※なお、「ケンブリッジ英語検定の試験官になるには」(Become a Cambridge English examiner: 英語ページ)には資格要件等の情報が公表されています。 https://www.cambridgeenglish.org/teaching-english/professional-development/become-a-cambridge-english-examiner/</p>	<p>(英語が非母語話者の場合)トレーナー(Team Leader、以下、TL)による電話インタビューでトレーニングに必要な英語運用力があると判断された場合</p> <p>(オンラインで自習)事前トレーニングを行っていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請が承認されると、Webポータル上のトレーニング資料が提供され、採点方法等を理解する。 ・事前トレーニング・最初のアクセスから30日以内に認証テストに合格する必要あり。 <p>↓</p> <p>(対面式)SE養成トレーニング積極的にトレーニングに参画し、トレーニングを通じて正しい評価スキルを身に付けた方</p> <p>↓</p> <p>(対面式)認証トレーニング実技トレーニングの実施。正しい評価ができていないか、再度チェックし、その結果TLが合格と判断した方</p>	<p>有資格者は認定後も1年に1回SE認証トレーニングに参加し、2年に1回モニタリングを受ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロフェッショナルな試験官チーム編成 SEのパフォーマンスはチーム・リーダー(TL: Team Leaders)が監督し、さらにチームリーダーはProfessional Support Leader (PSL) および Regional Team Leader (RTL)によって管理される。 ・オンライン試験官管理システム オンライン試験官管理システム(Online Examiner Management System)と評価スペシャリストポータルサイト(Assessment Specialist Portal)でライティングおよびスピーキングの全試験官を管理。 <p>※試験官2名と受検者2名で行うペア型スピーキングテスト。試験官2名のうち、1名は質問役と全体評価。もう1名は評価基準ごとに評価を行い、会話に加わることはない。試験官とのやり取りだけでなく、受検者同士のやり取りも評価の対象となる。</p>	<p>・ケンブリッジ英語検定はすべて対面式であるため、採点者＝面接者。</p>	<p>・ケンブリッジ英語検定はすべて対面式であるため、採点者＝面接者。</p>
IELTS	<p><資格> 学士号又は修士号保持者かつTEFL/TESOLなどの有資格者</p> <p><英語教授歴> 16歳以上の英語を母国語としない学習者を対象とする英語指導歴3年以上またはそれに相当する指導歴を有する</p> <p><人間性、対人スキル> 面接などにより基準を満たした人物であること</p>	<p>・面接・トレーニング・試験の結果が世界共通基準を上回り、かつ採点者として公平かつ正確に言語能力を測定することができるかと判断されたもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得後も適宜トレーナーによるモニタリングを実施し、必要に応じて補習、研修などのサポートを提供しているため、世界標準に則した採点の質を担保している。 ・資格は2年に1度、研修受講後に更新試験を受け、合格した場合のみ採点官の資格更新ができる。 ・資格取得後であっても採点官として適性がないと判断に至った場合、直ちに資格を停止し、場合によっては試験官としての資格を再度得る権利も失う。 ・採点官は規定に従い、期間が開くことなく定期的に採点を行い、採点基準への理解を深め、質を一定に保っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・採点は面接官が行う。 ・スピーキングテストは録音され必要に応じて上級採点官によりモニタリングを受ける。 ・面接官は、事前に受験者の中に既知の人がいないかどうかを運営担当者で確認をする。 	<p>採点者と同一</p>	<p>採点者と同一</p>
TOEFL iBTテスト	<p>学士もしくはそれ以上の学位を取得し、高校、大学、または成人学習においてESL教育経験を持つ者</p>	<p>ETSの採点者トレーニングを受け試験に合格すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、採点当日に行われるチェックテストに合格しなければ採点は行えない。 ・採点リーダーが、常に各採点者の採点の正確性について監視している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・採点は、スコアの安全性や整合性を保証するため、テスト実施国・地域ごとではなく、採点ネットワークを通じて一元的に行われる。 ・3～6名の採点者による採点。 ・受験者の出身国限定ではなく、多様な採点者で構成。 ・客観的な採点を行うため、回答以外の受験者の情報は採点者に提供されない。 	<p>-</p>	<p>-</p>

試験名	採点者の応募資格	採点者の選出基準	採点者の質の向上策	採点体制	面接者の応募資格 (対面式のみ)	面接者の選出基準 (対面式のみ)
GTEC	英語力と採点力を見極める独自の筆記試験および面接等を課し、ベネッセが定める選定評価基準に合格できた者。	英語力と採点力を見極める独自の筆記試験および面接等を課し、ベネッセが定める選定評価基準に合格できた者のみ選抜。更に研修を行い、修了テストで合格した者を選抜。	採点者個々に対し、定期的にベネッセの基準作成者・品質管理者が直接トレーニングや採点品質チェックを行い、モニタリングを行っている。	・採点センター内では、採点者、採点リーダー、採点監督者、品質管理者など品質担保が可能な組織体制を構築。 ・常に1つの解答を2名で採点。採点が異なる場合は上位の採点者が採点を確定する方式を採用。このことにより、公平・公正な採点を担保している。	-	-
TEAP	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	・各回次で実際に出题する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 ・予め基準となる採点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 ・基準との差異が大きい場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。	・採点を2名で行い、採点結果に差があった場合は、採点経験が豊富な採点者による再採点を行う。	採点者と同様	採点者と同様
TEAP CBT	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	・各回次で実際に出题する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 ・予め基準となる採点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 ・基準との差異が大きい場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。	・各受験者の解答を出题される問題単位で分割し、複数の採点者に割り当てて採点を行う。 ・各受験者の答案は最低2名で採点し、2名の採点結果に大きな差異があった場合は、採点経験が豊富な採点者による再採点を行う。	-	-
英検CBT	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	・各回次で実際に出题する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 ・予め基準となる採点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 ・基準との差異が大きい場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。	必要と判断された答案には、採点経験が豊富な採点者による再採点を行う。	-	-
英検2020 1 day S-CBT	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	・各回次で実際に出题する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 ・予め基準となる採点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 ・基準との差異が大きい場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。	必要と判断された答案には、採点経験が豊富な採点者による再採点を行う。	-	-
英検2020 2 days S-Interview	英語力を証明する資格や英語教育に関する経験などを条件としている。	採用前トレーニングと採用テストを課し、一定水準を上回り、採点者として適切と判断されること。	・各回次で実際に出题する問題を使ったトレーニングを全採点者対象に行う。 ・予め基準となる採点を付与した答案を全採点者に採点させ、基準との差異が大きい採点者を採点業務から外す。 ・基準との差異が大きい場合でも、採点の傾向を分析し、必要に応じてフィードバックを行う。	面接官は受験者の現在所属の高等学校を避けた上で、さらに万全を期し、その面接官だけでなく複数の採点者も採点する。	採点者と同様	採点者と同様

※本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。

不正防止対策

試験名	リーディング	リスニング	スピーキング	ライティング
ケンブリッジ英語検定	<p>全世界標準の規定に基づき厳格に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン・携帯電話・スマートウォッチ・タブレット・パソコン・携帯音楽プレーヤー等の電子機器は、試験教室内への持込禁止 ・隣席との距離は前後左右 1.25m以上離す。 ・IDチェックの徹底 	<p>全世界標準の規定に基づき厳格に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン・携帯電話・スマートウォッチ・タブレット・パソコン・携帯音楽プレーヤー等の電子機器は、試験教室内への持込禁止 ・隣席との距離は前後左右 1.25m以上離す。 ・IDチェックの徹底 	<p>全世界標準の規定に基づき厳格に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン・携帯電話・スマートウォッチ・タブレット・パソコン・携帯音楽プレーヤー等の電子機器は、試験教室内への持込禁止 ・動線が終わった受験者とこれから受ける受験者が重ならないよう配慮 ・IDチェックの徹底 ※スピーキングでは、待っている間と(面接の行われる部屋への)入室前の2回実施する。 	<p>全世界標準の規定に基づき厳格に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン・携帯電話・スマートウォッチ・タブレット・パソコン・携帯音楽プレーヤー等の電子機器は、試験教室内への持込禁止 ・隣席との距離は前後左右 1.25m以上離す。 ・IDチェックの徹底
IELTS	<ul style="list-style-type: none"> ・試験室へのパスポート、筆記用具、ラベルを取った透明なペットボトル入りの水以外の持ち込み禁止 ・前後、隣席との十分な距離の確保 ・規定にそった十分な試験官の配置 ・指紋認証(替え玉対策) ・問題冊子が封入されているビニールは当日会場にて開封(全世界共通のルール) ・受験者のID内容と本人確認 ・金属探知機による通信機器持ち込みチェック 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験室へのパスポート、筆記用具、ラベルを取った透明なペットボトル入りの水以外の持ち込み禁止 ・前後、隣席との十分な距離の確保 ・規定にそった十分な試験官の配置 ・指紋認証(替え玉対策) ・問題冊子が封入されているビニールは当日会場にて開封(全世界共通のルール) ・受験者のID内容と本人確認 ・金属探知機による通信機器持ち込みチェック 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーキングテスト室へのパスポート以外の持ち込み禁止 ・試験官による受験者のID内容と本人確認 ・試験を修了した受験者と、未受験者が交流しない動線の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験室へのパスポート、筆記用具、ラベルを取った透明なペットボトル入りの水以外の持ち込み禁止 ・前後、隣席との十分な距離の確保 ・規定にそった十分な試験官の配置 ・指紋認証(替え玉対策) ・問題冊子が封入されているビニールは当日会場にて開封(全世界共通のルール) ・受験者のID内容と本人確認 ・金属探知機による通信機器持ち込みチェック
TOEFL iBTテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・Webページにおける不正行為全般に関する注意喚起(www.ets.org/jp/toefl/ibt/test_day/policies/) ・テスト会場への身分証明書以外の持ち込み禁止 ・テスト会場でのconfidentiality agreementの確認・署名 ・試験当日の携帯品の確認(金属探知機チェック含む) ・試験実施中のビデオによる撮影 ・不正行為報告システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・Webページにおける不正行為全般に関する注意喚起(www.ets.org/jp/toefl/ibt/test_day/policies/) ・テスト会場への身分証明書以外の持ち込み禁止 ・テスト会場でのconfidentiality agreementの確認・署名 ・試験当日の携帯品の確認(金属探知機チェック含む) ・試験実施中のビデオによる撮影 ・不正行為報告システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・Webページにおける不正行為全般に関する注意喚起(www.ets.org/jp/toefl/ibt/test_day/policies/) ・テスト会場への身分証明書以外の持ち込み禁止 ・テスト会場でのconfidentiality agreementの確認・署名 ・試験当日の携帯品の確認(金属探知機チェック含む) ・試験実施中のビデオによる撮影 ・不正行為報告システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・Webページにおける不正行為全般に関する注意喚起(www.ets.org/jp/toefl/ibt/test_day/policies/) ・テスト会場への身分証明書以外の持ち込み禁止 ・テスト会場でのconfidentiality agreementの確認・署名 ・試験当日の携帯品の確認(金属探知機チェック含む) ・試験実施中のビデオによる撮影 ・不正行為報告システムの導入
GTEC	<p>○全タイプ共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具以外を机に出すこと禁止 ・本人確認書類、受検票(顔写真有)を使い、試験当日に本人確認(受検票、及び、オフィシャルスコア証明書に申込時アップロードする顔写真を印字) ・携帯機器等の電源OFF、収納の徹底 ・試験中の監督者による巡回 <p>○Advanced/Basic/Core</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験開始前に事前に問題冊子を開封できないようにシールを貼付。 <p>○CBT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣席との十分な距離の確保やパーテーションの設置 ・試験前のテストアプリ「起動不可」のセッティング 	<p>○全タイプ共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具以外を机に出すこと禁止 ・本人確認書類、受検票(顔写真有)を使い、試験当日に本人確認(受検票、及び、オフィシャルスコア証明書に申込時アップロードする顔写真を印字) ・携帯機器等の電源OFF、収納の徹底 ・試験中の監督者による巡回 <p>○Advanced/Basic/Core</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験開始前に事前に問題冊子を開封できないようにシールを貼付。 <p>○CBT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣席との十分な距離の確保やパーテーションの設置 ・試験前のテストアプリ「起動不可」のセッティング 	<p>○全タイプ共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具以外を机に出すこと禁止 ・試験前のテストアプリ「起動不可」のセッティング ・本人確認書類、受検票(顔写真有)を使い、試験当日に本人確認(受検票、及び、オフィシャルスコア証明書に申込時アップロードする顔写真を印字) ・携帯機器等の電源OFF、収納の徹底 ・試験中の監督者による巡回 <p>○Advanced/Basic/Core</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験開始前に事前に問題冊子を開封できないようにシールを貼付。 <p>○CBT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防音用イヤーマフ、カナル型イヤホン、サウンドマスキングで周囲の回答が聞こえない状況を実現 <p>○CBT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣席との十分な距離の確保やパーテーションの設置 	<p>○全タイプ共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具以外を机に出すこと禁止 ・本人確認書類、受検票(顔写真有)を使い、試験当日に本人確認(受検票、及び、オフィシャルスコア証明書に申込時アップロードする顔写真を印字) ・携帯機器等の電源OFF、収納の徹底 ・試験中の監督者による巡回 <p>○Advanced/Basic/Core</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験開始前に事前に問題冊子を開封できないようにシールを貼付。 <p>○CBT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣席との十分な距離の確保やパーテーションの設置 ・試験前のテストアプリ「起動不可」のセッティング

試験名	リーディング	リスニング	スピーキング	ライティング
TEAP	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。(顔写真付き身分証明書のみ有効) 顔写真(受験者が事前に登録)が不鮮明な場合等には試験会場で再撮影を行い再撮影した顔写真が成績表に掲載される。 携帯電話等の電源OFF、カバンへの収納の徹底。(試験前に監督者が全ての受験者の席を巡回して電源OFFと収納を確認する) 問題冊子、解答用紙、HBの黒鉛筆(シャープペンシル可)、消しゴム以外は原則机上には置かせない。(飲料はラベルをはがした無色透明なペットボトルのみ可) 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 隣席との十分な距離。(長机の場合は1人空けて座らせる)</p>	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。(顔写真付き身分証明書のみ有効) 顔写真(受験者が事前に登録)が不鮮明な場合等には試験会場で再撮影を行い再撮影した顔写真が成績表に掲載される。 携帯電話等の電源OFF、カバンへの収納の徹底。(試験前に監督者が全ての受験者の席を巡回して電源OFFと収納を確認する) 問題冊子、解答用紙、HBの黒鉛筆(シャープペンシル可)、消しゴム以外は原則机上には置かせない。(飲料はラベルをはがした無色透明なペットボトルのみ可) 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 隣席との十分な距離。(長机の場合は1人空けて座らせる)</p>	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。(顔写真付き身分証明書のみ有効) 顔写真(受験者が事前に登録)が不鮮明な場合等には試験会場で再撮影を行い再撮影した顔写真が成績表に掲載される。 携帯電話等の電源OFF、カバンへの収納の徹底。 面接入室前の本人確認の徹底。 問題漏えいしない(面接前に出題内容を知ることができない)タイムスケジュールと試験会場での運営方法。</p>	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。(顔写真付き身分証明書のみ有効) 顔写真(受験者が事前に登録)が不鮮明な場合等には試験会場で再撮影を行い再撮影した顔写真が成績表に掲載される。 携帯電話等の電源OFF、カバンへの収納の徹底。(試験前に監督者が全ての受験者の席を巡回して電源OFFと収納を確認する) 問題冊子、解答用紙、HBの黒鉛筆(シャープペンシル可)、消しゴム以外は原則机上には置かせない。(飲料はラベルをはがした無色透明なペットボトルのみ可) 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 隣席との十分な距離。(長机の場合は1人空けて座らせる)</p>
TEAP CBT	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。(顔写真付き身分証明書のみ有効) 顔写真(受験者が事前に登録)が不鮮明な場合等には試験会場で再撮影を行い再撮影した顔写真が成績表に掲載される。 携帯電話等の電源OFF、カバンへの収納の徹底。(試験前に監督者が全ての受験者の席を巡回して電源OFFと収納を確認する) メモを取るためのボールペン以外は原則机上には置かせない。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 全席パーテーションを設置。</p>	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。(顔写真付き身分証明書のみ有効) 顔写真(受験者が事前に登録)が不鮮明な場合等には試験会場で再撮影を行い再撮影した顔写真が成績表に掲載される。 携帯電話等の電源OFF、カバンへの収納の徹底。(試験前に監督者が全ての受験者の席を巡回して電源OFFと収納を確認する) メモを取るためのボールペン以外は原則机上には置かせない。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 全席パーテーションを設置。 ヘッドセットの遮音性と指向性(マイク)に関する基準を満たしたものを使用。</p>	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。(顔写真付き身分証明書のみ有効) 顔写真(受験者が事前に登録)が不鮮明な場合等には試験会場で再撮影を行い再撮影した顔写真が成績表に掲載される。 携帯電話等の電源OFF、カバンへの収納の徹底。(試験前に監督者が全ての受験者の席を巡回して電源OFFと収納を確認する) メモを取るためのボールペン以外は原則机上には置かせない。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 全席パーテーションを設置。 ヘッドセットの遮音性と指向性(マイク)に関する基準を満たしたものを使用。</p>	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。(顔写真付き身分証明書のみ有効) 顔写真(受験者が事前に登録)が不鮮明な場合等には試験会場で再撮影を行い再撮影した顔写真が成績表に掲載される。 携帯電話等の電源OFF、カバンへの収納の徹底。(試験前に監督者が全ての受験者の席を巡回して電源OFFと収納を確認する) メモを取るためのボールペン以外は原則机上には置かせない。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 全席パーテーションを設置。</p>
英検CBT	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。 携帯電話は原則試験教室外のロッカーへ収納し、教室内への持込み禁止。(ロッカー未設置会場の場合、電源をOFFにさせ、足元のカバンへの収納の徹底。) 試験教室へ受験者による筆記用具の持込は禁止。メモを取るための筆記用具(ボールペン)は協会から貸与。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 全席パーテーションを設置。</p>	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。 携帯電話は原則試験教室外のロッカーへ収納し、教室内への持込み禁止。(ロッカー未設置会場の場合、電源をOFFにさせ、足元のカバンへの収納の徹底。) 試験教室へ受験者による筆記用具の持込は禁止。メモを取るための筆記用具(ボールペン)は協会から貸与。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 全席パーテーションを設置。 ヘッドセットの遮音性と指向性(マイク)に関する基準を満たしたものを使用。</p>	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。 携帯電話は原則試験教室外のロッカーへ収納し、教室内への持込み禁止。(ロッカー未設置会場の場合、電源をOFFにさせ、足元のカバンへの収納の徹底。) 試験教室へ受験者による筆記用具の持込は禁止。メモを取るための筆記用具(ボールペン)は協会から貸与。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 全席パーテーションを設置。 ヘッドセットの遮音性と指向性(マイク)に関する基準を満たしたものを使用。</p>	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。 携帯電話は原則試験教室外のロッカーへ収納し、教室内への持込み禁止。(ロッカー未設置会場の場合、電源をOFFにさせ、足元のカバンへの収納の徹底。) 試験教室へ受験者による筆記用具の持込は禁止。メモを取るための筆記用具(ボールペン)は協会から貸与。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 全席パーテーションを設置。</p>
英検2020 1 day S-CBT	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。 携帯電話は原則試験教室外のロッカーへ収納し、教室内への持込み禁止。(ロッカー未設置会場の場合、電源をOFFにさせ、足元のカバンへの収納の徹底。) 試験教室へ受験者による筆記用具の持込は禁止。メモを取るための筆記用具(鉛筆・消しゴム)は協会から貸与。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 全席パーテーションを設置。</p>	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。 携帯電話は原則試験教室外のロッカーへ収納し、教室内への持込み禁止。(ロッカー未設置会場の場合、電源をOFFにさせ、足元のカバンへの収納の徹底。) 試験教室へ受験者による筆記用具の持込は禁止。メモを取るための筆記用具(鉛筆・消しゴム)は協会から貸与。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 全席パーテーションを設置。 ヘッドセットの遮音性と指向性(マイク)に関する基準を満たしたものを使用。</p>	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。 携帯電話は原則試験教室外のロッカーへ収納し、教室内への持込み禁止。(ロッカー未設置会場の場合、電源をOFFにさせ、足元のカバンへの収納の徹底。) 試験教室へ受験者による筆記用具の持込は禁止。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 全席パーテーションを設置。 ヘッドセットの遮音性と指向性(マイク)に関する基準を満たしたものを使用。</p>	<p>試験会場での受験前の本人確認の徹底。 携帯電話は原則試験教室外のロッカーへ収納し、教室内への持込み禁止。(ロッカー未設置会場の場合、電源をOFFにさせ、足元のカバンへの収納の徹底。) 試験教室へ受験者による筆記用具の持込は禁止。メモを取るための筆記用具(鉛筆・消しゴム)は協会から貸与。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 全席パーテーションを設置。</p>

試験名	リーディング	リスニング	スピーキング	ライティング
英検2020 2 days S-Interview	試験会場での受験前の本人確認の徹底。(受験票に受験者が申込時にWEB登録した顔写真を印字) 携帯電話等の電源OFF、カバンへの収納の徹底。(試験前に監督者が全ての受験者の席を巡回して電源OFFと収納を確認する) 問題冊子、解答用紙、HBの黒鉛筆(シャープペンシル可)、消しゴム以外は原則机上には置かせない。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 隣席との十分な距離。(長机の場合は1人空けで座らせる)	試験会場での受験前の本人確認の徹底。(受験票に受験者が申込時にWEB登録した顔写真を印字) 携帯電話等の電源OFF、カバンへの収納の徹底。(試験前に監督者が全ての受験者の席を巡回して電源OFFと収納を確認する) 問題冊子、解答用紙、HBの黒鉛筆(シャープペンシル可)、消しゴム以外は原則机上には置かせない。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 隣席との十分な距離。(長机の場合は1人空けで座らせる)	試験会場での受験前の本人確認の徹底。(受験票に受験者が申込時にWEB登録した顔写真を印字) 携帯電話等の電源OFF、カバンへの収納の徹底。(試験前に監督者が全ての受験者の席を巡回して電源OFFと収納を確認する) 面接室入室前の本人確認の徹底。 問題漏えいしない(面接前に出題内容を知ることができない)タイムスケジュールと試験会場での運営方法。	試験会場での受験前の本人確認の徹底。(受験票に受験者が申込時にWEB登録した顔写真を印字) 携帯電話等の電源OFF、カバンへの収納の徹底。(試験前に監督者が全ての受験者の席を巡回して電源OFFと収納を確認する) 問題冊子、解答用紙、HBの黒鉛筆(シャープペンシル可)、消しゴム以外は原則机上には置かせない。 試験中、監督者による定期的な巡回を行う。 隣席との十分な距離。(長机の場合は1人空けで座らせる)

※本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。

トラブル等発生時の再試験実施の可否及び対応策等について

実施主体名	試験名	トラブル等(受験生の責めに帰するもの以外)が発生し、受験できなかった場合の対応					再試験における検定料徴収の有無	スピーキング等機器の不具合が発生した場合の対応
		最終回以外		最終回				
		再試験実施の可否	再試験日の設定方法	再試験実施の可否	再試験日の設定方法			
Cambridge Assessment English (ケンブリッジ大学英語検定機構)	ケンブリッジ英語検定	可能	基本、後ろの回で実施	再試験は可能だが大学入試英語成績提供システムのスケジュール内での対応不可	(グローバルに設定のある試験日のうち)直近の試験日を設定。	無し ※但し、天候などのやむを得ない状況に限る。	試験官2名と受検者2名で行うペア型スピーキングテストのため、機器の使用はありません。	
IDP:IELTS Australia	International English Language Testing System(IELTS)	可能	IELTSの規定に基づいた日程で行う(IELTSは月3回程度毎月行われている)	共通IDを記入して受験する者については、11月最初の土曜日の試験を最終日として案内を行うが、試験自体は11月にあと2回、そして12月も試験は行われるのでその試験を受けてもらうことは可能	世界的に設定されているIELTSの試験日から選択。 ※但し、成績提供期日に間に合わない可能性がある。	無し	・スピーキングレコーダーの故障:速やかにバックアップで用意している正常な機器に交換する。(スピーキングはすべて1対1の個室で行われている) ・リスニングCDプレーヤーの故障:速やかにバックアップで用意している正常な機器に交換する。	
ブリティッシュ・カウンシル	International English Language Testing System(IELTS)	可能	ほぼ毎週実施をしているので、都合の良い実施日と会場を選んで受検していただく	世界的に設定されているIELTSの試験日から、最終回以降の日程で試験自体は実施が可能。結果提供が成績提供期日に間に合わない可能性がある場合は実施は行わない	世界的に設定されているIELTSの試験日から選択。 ※但し、成績提供期日に間に合わない可能性がある。	無し	・スピーキングレコーダーの故障:速やかにバックアップで用意している正常な機器に交換する。(スピーキングはすべて1対1の個室で行われている) ・リスニングCDプレーヤーの故障:速やかにバックアップで用意している正常な機器に交換する。	
Educational Testing Service	TOEFL iBT®テスト	可能 ※但し、天候などのやむを得ない状況に限る(電車遅延や病気は対象外)。	後ろの試験日で実施	可能 ※但し、天候などのやむを得ない状況に限る(電車遅延や病気は対象外)。成績提供期日に間に合わない可能性がある。	後ろの試験日で実施 ※但し、成績提供期日に間に合わない可能性がある。	無し ※但し、天候などのやむを得ない状況に限る(電車遅延や病気は対象外)。	・原因を探り、その機器の復旧を目指す。復旧できない場合は、予備席に移動してもらい、その席で再開を試みる。 ・復旧が見込めない等、当日受験継続が難しい場合は後ろの試験日で実施する。	
株式会社ベネッセコーポレーション	GTEC	可能	追加で試験日を設定、もしくは後日の試験日で実施。	可能	追加で試験日を設定	無し	試験問題開始前に入力作業があるため、不具合機器はその段階で検知が可能。不具合機器が発生した場合は、別端末へ変更し、状況によっては別室対応を行う。なお、端末が再起動可能な場合は、不具合発生直前の問題からの再開ができる。	

実施主体名	試験名	トラブル等(受験生の責めに帰するもの以外)が発生し、受験できなかった場合の対応					再試験における検定料徴収の有無	スピーキング等機器の不具合が発生した場合の対応	
		最終回以外		最終回		再試験実施の可否			再試験日の設定方法
		再試験実施の可否	再試験日の設定方法	再試験実施の可否	再試験日の設定方法				
公益財団法人日本英語検定協会	TEAP	可能	後日の回で実施、また時期によっては追加で試験日を設定。	可能 ※但し、最終回の試験日によっては成績提供期日に間に合わない可能性がある。	会場借用の状況による	無し	予備機器への速やかな取替え。 不具合が発生した箇所からの再放送。		
	TEAP CBT	可能	後日の回で実施、また時期によっては追加で試験日を設定。	可能 ※但し、最終回の試験日によっては成績提供期日に間に合わない可能性がある。	追加で試験日を設定	無し	予備機器(ヘッドセット等)への速やかな取替え。 予備席での受験。 不具合が発生した箇所からの再放送、再出題。		
	英検CBT	可能	後日の回で実施、また時期によっては追加で試験日を設定。	可能 ※但し、最終回の試験日によっては成績提供期日に間に合わない可能性がある。	追加で試験日を設定	無し	予備機器(ヘッドセット等)への速やかな取替え。 予備席での受験。 不具合が発生した箇所からの再放送、再出題。		
	英検2020 1 day S-CBT	可能	後日の回で実施、また時期によっては追加で試験日を設定。	可能 ※但し、最終回の試験日によっては成績提供期日に間に合わない可能性がある。	追加で試験日を設定	無し	予備機器(ヘッドセット等)への速やかな取替え。 予備席での受験。 不具合が発生した箇所からの再放送、再出題。		
	英検2020 2 days S-Interview	可能	後日の回で実施、また時期によっては追加で試験日を設定。	可能 ※但し、最終回の試験日によっては成績提供期日に間に合わない可能性がある。	会場借用の状況による	無し	予備機器への速やかな取替え。 不具合が発生した箇所からの再放送。		

※本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。

障害等のある受験生への合理的な配慮 配慮内容例

試験名：ケンブリッジ英語検定 (Cambridge English Qualifications) <http://www.cambridgeenglish.org/jp/help/special-requirements/>
 ※各区分に記載している「配慮する事項」は、代表的な事項を例として掲載しています。なお、表に記載がない受験上の配慮を希望する場合は、各資格・検定試験実施主体に相談してください。(03-3518-8276)

【ア】 視覚に関する配慮事項						
対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
視覚：目のご不自由な受験者	<ul style="list-style-type: none"> 試験時間の延長 (通常25%の時間延長) 監督者を配した休憩時間の確保の申請が可能 補助機器の使用許可 コンピューター読み取り解答用紙の代わりに、別の用紙への記入 点字問題用紙 拡大文字問題用紙 代読・代筆の依頼 	<ol style="list-style-type: none"> 配慮対象者用 (SR) バージョン 修正拡大文字 (MLP) バージョン 耳のご不自由な方のための読唇バージョン <p>1. SRバージョン：質問文を読む時間、解答を書く時間、解答をチェックする時間がそれぞれ充分保てるよう、各パートの前、途中、終了時にCDを止める音止め方式。時間延長で受検する場合はこちらのバージョンを活用。</p> <p>2. MLPバージョン：通常のテキスト、調整された試験問題指示 (指示)、簡易化されたレイアウト、統一されたフォントを使用。</p> <p>印刷された問題用紙の代わりに (またはそれに加えて)、コンピューター画面拡大ソフトウェア/CCTVなどの読み取り機器の使用も申請可能。</p> <p>3. 耳のご不自由な方のための読唇バージョン</p>	<ul style="list-style-type: none"> 時間の延長 (通常25%のところ、リーディングテストの場合50-100%の延長申請を認める可能性あり。点字バージョンで受検する場合は100%以上の時間延長の申請を認める可能性あり。早めの申請が必要。) リーディングテスト (& 文法・語彙テスト) の点字版 別冊の問題文冊子と設問冊子 点字版における視覚的な情報 (絵/写真) の削除 試験問題指示の変更 受験者が正しい情報を見つけやすくなるために、追加の見出しを挿入してあります。 修正拡大文字版 リーディング&文法・語彙テスト 視覚障がいのある受験者、小さい文字を読んだり、絵/写真に焦点を合わせたりするのが困難な身体障がいの受験者を対象。失読症 (dyslexia) などの特異な学習困難を有する受験者も、修正拡大版テスト用紙を申請可能。 弱視の受験者は、カラーフィルターの使用許可を申請 点字版および修正拡大文字版サンプルテストも上記URLからダウンロードできます 	<ul style="list-style-type: none"> 時間の延長 点字版ライティングテスト 標準版からの変更点について 問題の内容または表現を変更する場合あり 電子メールのライティング問題の指示を変更 棒グラフなどのグラフを用いて情報を示す問題については、情報の提示法を変更する場合あり 注釈 (各問題またはパートの最初に示される指示) を変更する場合あり 点字版では吹き出しなどを別の方法で示す 修正拡大版ライティングテスト (拡大フォントArial) サイズ18 (問題用紙を読み、解答を記入するために必要な) 補助器具の使用許可 解答の代筆に関する申請、許可 	<ul style="list-style-type: none"> 時間の延長 「テキストを読んで理解する」「口頭での指示を理解する」「発話する」など、スピーキングテストを通して、その都度延長時間が与えられる。延長時間は、試験官の裁量により決定。時間を延長しすぎて受験者に過度のプレッシャーを与えないよう注意。 配慮対象者向けスピーキングテスト 単独受検 (受験者が1人でスピーキングテストを受検) 配慮に関する特別なご要望が同一、または同様の受験者とペアを組み受検 ダメーパートナー (代役受験者) とペアを組み受検 配慮を必要としない一般受験者とペアを組み受検 (この場合、いずれの受験者も同一の、配慮対象者向けスピーキングテストを受検) 目のご不自由な受験者向けのテスト資料：点字版スピーキングテスト 弱視等、ご病気、その他の原因で目のご不自由な受験者向けのテスト資料 細かい印刷文字を読むこと、絵や写真に集中することが難しい受験者向けの拡大テスト資料 A3サイズに拡大した視覚的テスト資料 (絵と写真) エリアル (Arial) サイズ18、太字の書体に拡大した黒字プロンプト 	Special Arrangements Form (特別手配フォーム) に身元が保証された医師による診断書を添付のうえ申請する。

【イ】 聴覚に関する配慮事項							
対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類	
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング		
聴覚：耳のご不自由な受験者 ・ (吃音を含む) 発話に困難を伴う受験者	<ul style="list-style-type: none"> 補聴器、ワイヤレスシステム、ヘッドホン、聴覚AMP等の機器の使用 配慮対象者用テスト「耳のご不自由な方のための読唇バージョン」のご用意 時間延長の申請可能 (通常は25%の延長) 別室受検 	<p>「耳のご不自由な方のための読唇バージョン」のご案内あり。</p> <p>CDを再生する代わりに、試験監督者がテキスト、教節の文章、会話、抽出文などを受験者に読み上げます。受験者は各テキストを3回聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間延長申請可能 別室受検 				<ul style="list-style-type: none"> 耳のご不自由な受験者の場合以下のいずれかで受検可能。 単独受検 (受験者が1人でスピーキングテストを受検) ダメーパートナー (代役受験者) とペアを組み受検 補聴器を使えばある程度聞き取れるなどの場合、時間延長の申請が可能。 補聴器を使えばある程度聞き取れるなどの場合には、聴きとったことを理解し、解答するまでの時間を延長するよう試験官に求めることが可能。受験者がテストの一部 (あるいは全て) について読唇術を用いる場合には、言われたことを「理解する」時間の延長申請が可能。 なお、極めて障がいの程度が重く、適切な方法がないと判断される場合は、スピーキングテストの免除を申請できる場合あり。 発話に困難を伴う受験者の場合：通常、標準的な視覚的テスト資料 (イラストや写真等) で受検 発話に困難を伴う障がいが軽度の場合、あるいは時間の制約や緊張などによりそれが悪化する場合には、発話までの時間の延長を試験官に求めることが可能。 発話に困難を伴う重度の障がいにより、パートナーに悪影響を及ぼす可能性がある受験者の場合、いずれかの受検が可能。 単独受検 (受験者が1人でスピーキングテストを受検) ダメーパートナー (代役受験者) とペアを組み受検 極めて重度な発話に困難を伴う障がいのある受験者は、スピーキングテストの免除を申請できる場合あり。 	Special Arrangements Form (特別手配フォーム) に身元が保証された医師による診断書を添付のうえ申請する。

【ウ】 肢体不自由に関する配慮事項						
対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
脳性麻痺など運動障害のある受験者	<ul style="list-style-type: none"> 試験時間の延長 (通常は25%の延長) 監督者を配した休憩時間 解答記入の際の補助、コンピューターまたはワードプロセッサ、またはその他の形式の補助機器・テクノロジーの使用 受験者の負担を考慮し、座席を試験室の出入り口付近にある広めの場所に指定 	<p>配慮対象者用リスニングテストの申請可能。当テストでは受験者は特別に録音されたバージョンを聞く。試験監督者は、テストの様々な箇所をCDを一時停止するよう指導されており、受験者はリスニングテスト中に適切なタイミングで追加の時間を保持できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 別室受検 	<p>修正拡大文字版テストは、目のご不自由な受験者の他、小さい文字を読んだり、絵/写真に焦点を合わせたりするのが困難なお身体のご不自由な受験者の申請も可能。失読症 (dyslexia) などの特異な学習困難を有する受験者も、修正拡大版テスト用紙を申請することが可能。</p> <p>試験時間の延長 (通常25%のところ、リーディングテストの場合50-100%の延長申請を認める可能性あり。早めの申請が必要)</p>	<p>目のご不自由な受験者の他、その他お身体がご不自由な受験者は、画面読み取りソフトを使って問題用紙のテキストを拡大したり、全ての資料を読み上げるほか、解答を記入・修正が可能。解答を自筆記入できない場合には、コンピューターを使って解答を書く許可の申請可能。画面読み取りプログラムを使用する場合には、スペルチェック・文法チェック、シソーラスの機能を使うことはできません。受験者は代読者および/または書記係に問題用紙の資料を読み上げ、解答を記入してもらうことも申請可能。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単独受検 (受験者が1人でスピーキングテストを受検) ダメーパートナー (代役受験者) とペアを組み受検 いずれかで受検。 <p>なお、極めて障がいの程度が重く、適切な方法がないと判断される場合は、スピーキングテストの免除を申請できる場合あり。</p>	Special Arrangements Form (特別手配フォーム) に身元が保証された医師による診断書を添付のうえ申請する。

【エ】 病弱に関する配慮事項						
対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
病弱な受験者 (慢性的呼吸器疾患、心臓疾患、腎臓疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者)	<ul style="list-style-type: none"> 1階又はエレベーターが利用可能な試験室で受検 杖の持参使用 試験室入り口までの付添者の同伴 試験場への乗用車での入構 別室受検 トイレに近い試験室で受検 座席を試験室の出入り口に近い所に指定 					Special Arrangements Form (特別手配フォーム) に身元が保証された医師による診断書を添付のうえ申請する。

【オ】 発達障害に関する配慮事項						
対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等、配慮を必要とする受験者	<ul style="list-style-type: none"> 試験時間の延長 (通常は25%の延長) 試験監督員立ち合いのもとでの休憩の許可申請が可能。解答の記入をやめ、別室にて個人的に休憩をとることができ、集中力の持続が困難な場合に有効。 コンピューターを使用しての解答記入 テスト問題の読み取り (代読者、画面読み取りソフトのあるコンピューターの使用) 代筆 (転写) 解答記入時のヘルプ カラーフィルター 拡大文字テスト用紙 画面拡大鏡等 	<p>拡大文字テスト用紙 (修正拡大文字版) リスニングテストの申請が可能。(受験者が十分な時間を保てるようにすることを目的)</p> <p>なお、失読症など学習に特異的な困難を示す受験者は、電子画面読み取りソフトウェア (拡大機器としての利用以外) の使用や代読者や代筆者を依頼することは不可。</p>	<p>拡大文字 (修正拡大文字版) テスト用紙は、小さい文字を読んだり、絵/写真に焦点を合わせたりするのが困難なお身体のご不自由な受験者の申請も可能。失読症 (dyslexia) などの特異な学習困難を有する受験者も、修正拡大版テスト用紙を申請することが可能。</p> <p>試験時間の延長 (通常25%のところ、リーディングテストの場合50-100%の延長申請を認める可能性あり)</p>			<ul style="list-style-type: none"> Special Arrangements Form (特別手配フォーム) に身元が保証された医師による診断書を添付のうえ申請する。 (学習に特異的な困難を示す受験者の場合のみ) 以下の条件を満たす報告書の提出： <ol style="list-style-type: none"> 受験者が13歳以上の時点で診断・作成された報告書であること 学習障害の度合いと、(診断に際した) テストについて詳細が説明されているもの 学習に特異的な困難を示すエビデンスがウェクスラー式知能検査など、適切かつ認知されたテストの結果得られたことを証明するレポートもしくは報告書の提出。 教育的・医学的に資格のある心理学者や、適切な資格をもつ診断可能な専門家が書面で報告していること

【カ】 その他の配慮事項 (【ア】～【オ】の区分以外の者)						
対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
・ (長期にわたる障がいではない) 利き腕の骨折など	<ul style="list-style-type: none"> 試験時間の延長 代筆者 (書記係) 					Special Arrangements Form (特別手配フォーム) に身元が保証された医師による診断書を添付のうえ申請する。

障害等のある受検生への合理的な配慮 配慮内容例

試験名：International English Language Testing System (IELTS)

※各区分に記載している「配慮する事項」は、代表的な事項を例として掲載しています。なお、表に記載がない受検上の配慮を希望する場合は、各資格・検定試験実施主体に相談してください。

オンラインフォーム <https://www.ielts.jp/contact-us/> 又は IELTS公式テストセンター：一般財団法人日本スタディ・アブロード・ファンデーション (JSAF)
 TEL:03-6273-9356 Email:jsaf-ielts@japanstudyabroad.org オンラインフォーム：<https://japanstudyabroad.org/ieltsjapan-toiwase/>

【ア】視覚に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
視覚に関する配慮を必要とする者	<ul style="list-style-type: none"> 試験受付までの付添者の同伴 別室の設定 座席配置 (窓側の明るい座席等) の配慮 試験時間の延長 (通常25%の延長。それ以上の延長申請があった場合、症状により総合的に判断) 画面拡大ソフトウェア 再生可能な点字ディスプレイ 問題読み上げ者の申請 (リーディングの試験では、読み上げ者は問題文を読み上げることはできない。また、画面朗読ソフトウェアの使用も禁じられている) 機械点字キーボード プリンターに接続された電子点字キーボード コンピューターもしくはワープロ (スペルチェック、文法チェック、類語辞典、その他の類似の機能の使用は禁止) 点字メモ取り 代筆者の申請 点字問題冊子の使用 拡大問題冊子の使用 (問題の解答に必要な「視覚的」資料を排除しそのうえで、A4サイズの大活字版を作成。活字の大きさは通常18ポイント太字) 	<ul style="list-style-type: none"> 特別版リスニングテストの実施...質問文を読む時間、解答を書く時間、解答をチェックする時間がそれぞれ充分保てるよう、各パートの前、途中、終了時にCDを止める音止め方式。 			<ul style="list-style-type: none"> 拡大文字または点字によるスピーキングタスクカードの使用 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関が発行する診断書

【イ】聴覚に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
聴覚に関する配慮を必要とするもの	<ul style="list-style-type: none"> 試験受付までの付添者の同伴 座席配置 試験開始・終了の明確な伝達 補聴器の着用 注意事項等の文書による確実な伝達 症状や受検方法により別教室を用意 	<ul style="list-style-type: none"> 免除 補聴器、ワイヤレスシステム、ヘッドホン、特別増幅器等の機器の使用 別室受験 聴覚障害者用 (リップリーディング) リスニング試験の実施 音声を再生する代わりに試験監督者 (リスニングテストを実施する担当者) が試験問題を読み上げる 試験の流れ、記入方法及び試験時間をPower Pointを使用し、教室正面のスクリーンにて常に表示する 	<ul style="list-style-type: none"> 試験の流れ、記入方法及び試験時間をPower Pointを使用し、教室正面のスクリーンにて常に表示する 	<ul style="list-style-type: none"> 試験の流れ、記入方法及び試験時間をPower Pointを使用し、教室正面のスクリーンにて常に表示する 	<ul style="list-style-type: none"> スピーキングテストの免除 試験時間の延長 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関が発行する診断書

【ウ】肢体不自由に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
肢体不自由に関する配慮を必要とする者	<ul style="list-style-type: none"> 試験室受付までの付添者の同伴 1階又はエレベーターが利用可能な試験室での受検 洋式トイレ又は障害者用トイレに近い試験室で受検 症状や受検方法により別室の設定 試験時間の延長や休憩時間の追加 車椅子の持参使用又は試験場での準備 廊下、トイレ、試験室に出入りできるための取り計らい 試験室の机や椅子の高さの調節 十分なスペースを確保 代筆者の申請 					<ul style="list-style-type: none"> 医療機関が発行する診断書

【エ】病弱に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
慢性的な呼吸器疾患、心臓疾患、肝臓疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者	<ul style="list-style-type: none"> エレベーターが利用可能な試験室で受検 試験時間の延長 試験受付までの付添者の同伴 監督下での休憩 座席配置の配慮 症状や受検方法により別室の設定 回答にあたってのコンピュータの使用 問題用紙の読み上げ 複写 (もしくは書き起こし) の設備 解答用紙への記入の援助 透明な色付きのオーバーレイ 試験問題の大活字版 その他の機器 症状及び受検方法により別室の確保又は座席を試験室の出入口に近いところに指定 必要な医療器具・薬の持ち込み可 					<ul style="list-style-type: none"> 医療機関が発行する診断書

【オ】発達障害に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害のため配慮を必要とするもの	<ul style="list-style-type: none"> 試験時間の延長 試験受付までの付添者の同伴 監督下での休憩 座席配置の配慮 症状や受検方法により別室の設定 回答にあたってのコンピュータの使用 問題用紙の読み上げ 複写 (もしくは書き起こし) の設備 解答用紙への記入の援助 透明な色付きのオーバーレイ 試験問題の大活字版 その他の機器 症状及び受検方法により別室の確保又は座席を試験室の出入口に近いところに指定 					<ul style="list-style-type: none"> 医療機関が発行する診断書

【カ】その他の配慮事項 (【ア】～【オ】の区分以外の者)

対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
【ア】～【オ】の区分以外の者で配慮を必要とするもの (例：吃音等発話に困難を伴う方)	<ul style="list-style-type: none"> 座席配置の配慮 症状及び受検方法により別室の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の要望をヒアリングした上でセンターで可能な配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の要望をヒアリングした上でセンターで可能な配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の要望をヒアリングした上でセンターで可能な配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の要望をヒアリングした上でセンターで可能な配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関が発行する診断書

障害等のある受検生への合理的な配慮 配慮内容例

IELTS(British Council)

試験名：IELTS（対象：「アカデミック・モジュール」）

※各区分に記載している「配慮する事項」は、代表的な事項を例として掲載しています。なお、表に記載がない受検上の配慮を希望する場合は、各資格・検定試験実施主体に相談してください。（教育事業部 IELTS課 03-3266-6852）

【ア】視覚に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
弱視、盲人などの視覚障がいの方	<ul style="list-style-type: none"> 拡大文字の問題冊子 点字の問題冊子 個室受験 時間延長 問題を読む際の手助け(補助機器の使用) 	<ul style="list-style-type: none"> リスニング問題特別対応CDの使用 	<ul style="list-style-type: none"> 回答代筆、(※問題文の読み上げ・画面朗読ソフトウェアの使用は禁止) 	<ul style="list-style-type: none"> 回答代筆 PC等入力用機器の使用 		<ul style="list-style-type: none"> 医療機関発行の診断書

【イ】聴覚に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
ろう(あ)、難聴、吃音などの聴覚障がいの方	<ul style="list-style-type: none"> 受付から試験終了まで担当スタッフの配置 	<ul style="list-style-type: none"> 免除 補聴器、ヘッドホンの使用、 個室にて音量増での実施 リスニング問題特別対応CDの使用 時間延長 聴覚障がい者用(リップリーディング)リスニング試験 			<ul style="list-style-type: none"> 免除 担当試験官の選定配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関発行の診断書

【ウ】肢体不自由に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
上肢不自由、下肢不自由などの身体障がいの方	<ul style="list-style-type: none"> 入り口から試験終了までスタッフの付き添いの配慮 机・座席・部屋(階数)等、スペースや出入りの配慮 個室対応 時間延長 	<ul style="list-style-type: none"> 代筆者を認める 自前のタイプの持ち込み可ないしセンターからの提供 	<ul style="list-style-type: none"> 代筆者を認める 自前のタイプの持ち込み可ないしセンターからの提供 	<ul style="list-style-type: none"> 代筆者を認める 自前のタイプの持ち込み可ないしセンターからの提供 		<ul style="list-style-type: none"> 医療機関発行の診断書

【エ】病弱に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
持病のある方、健康に問題のある方	<ul style="list-style-type: none"> 必要な医療器具・薬の持ち込み可 個室受験の配慮 時間延長 監督下での休憩 回答にあたってのコンピューターの使用 問題用紙の読み上げ 複写、もしくは書き起こし 解答用紙への記入援助 透明な色つきカバーシートの利用(問題用紙の色を変更することによって、視覚からの情報が得やすい病状などの場合) 拡大文字の問題冊子 補助機器の使用 					<ul style="list-style-type: none"> 医療機関発行の診断書

【オ】発達障害に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
ADHD、自閉症、学習障害、アスペルガーなど本人の申請及び医師による発達障がい診断がある方	<ul style="list-style-type: none"> 時間延長 個室対応 担当スタッフの配置 監督下での休憩 回答にあたってのコンピューターの使用 問題用紙の読み上げ 複写、もしくは書き起こし 解答用紙への記入援助 透明な色つきカバーシートの利用(問題用紙の色を変更することによって、視覚からの情報が得やすい病状などの場合) 拡大文字の問題冊子 補助機器の使用 					<ul style="list-style-type: none"> 医療機関発行の診断書

【カ】その他の配慮事項（【ア】～【オ】の区分以外の者）

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
本人から申請があり医師による診断がある方	<ul style="list-style-type: none"> 本人の要望をヒアリングした上でセンターで可能な配慮 					<ul style="list-style-type: none"> 医療機関発行の診断書

障害等のある受検生への合理的な配慮 配慮内容例

試験名：TOEFL iBTテスト

※各区分に記載している「配慮する事項」は、代表的な事項を例として掲載しています。なお、表に記載がない受検上の配慮を希望する場合は、各資格・検定試験実施主体に相談してください。

(Educational Testing Service (ETS) *英語のみ対応可 Email:stassd@ets.org/電話:1-609-771-7780、またはRegional Registration Center (RRC)プロメトリック株式会社 電話:03-6204-9830)

【ア】視覚に関する配慮事項

Table with 6 columns: 対象となる者, 配慮する事項 (例), and 必要な提出書類. Includes details for visual accommodations like font size and contrast.

【イ】聴覚に関する配慮事項

Table with 6 columns: 対象となる者, 配慮する事項 (例), and 必要な提出書類. Includes details for hearing accommodations like sign language and captioning.

【ウ】肢体不自由に関する配慮事項

Table with 6 columns: 対象となる者, 配慮する事項 (例), and 必要な提出書類. Includes details for physical disability accommodations like wheelchair access and extra time.

【エ】病弱に関する配慮事項

Table with 6 columns: 対象となる者, 配慮する事項 (例), and 必要な提出書類. Includes details for accommodations for students with chronic health conditions.

【オ】発達障害に関する配慮事項

Table with 6 columns: 対象となる者, 配慮する事項 (例), and 必要な提出書類. Includes details for accommodations for students with developmental disabilities.

【カ】その他の配慮事項 (【ア】～【オ】の区分以外の者)

Table with 6 columns: 対象となる者, 配慮する事項 (例), and 必要な提出書類. Includes details for other accommodations not covered in the previous categories.

障害等のある受検生への合理的な配慮 配慮内容例

GTEC

試験名：GTEC

実施主体名：株式会社ベネッセコーポレーション

※各区分に記載している「配慮する事項」は、代表的な事項を例として掲載しています。なお、表に記載がない受検上の配慮を希望する場合は、各資格・検定試験実施主体に相談してください。(0570-064652)

【ア】視覚に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
①点字教育を受けている者 ②障害程度等級が6級 ・良い方の目の矯正視力が0.15以下 ・両眼による視野について視能率による損失率が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 試験室入口までの付添者の同伴 トイレ等における付添者の手配 本人の時間確認時における音声時計の使用 点字メモ用紙の使用 点字ディスプレイの持参使用 時間延長 別室受検 (時間延長や特別な配慮が必要な場合、全技能で、別室受検を実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 点字問題冊子の使用 拡大文字問題冊子の使用 PCの画面の拡大表示 (CBT) 点字用紙への解答 問題冊子の解答番号にチェックする解答 	<ul style="list-style-type: none"> 点字問題冊子の使用 拡大文字問題冊子の使用 PCの画面の拡大表示 (CBT) 時間延長 別室受検 点字用紙への解答 問題冊子の解答番号にチェックする解答 	<ul style="list-style-type: none"> 点字問題冊子の使用 拡大文字問題冊子の使用 PCの画面の拡大表示 (CBT) 時間延長 別室受検 点字用紙への解答 拡大解答用紙への解答 	<ul style="list-style-type: none"> 点字用問題冊子・タブレット端末の使用 拡大文字問題冊子・通常タブレットの使用 PCの画面の拡大表示 (CBT) 	<ul style="list-style-type: none"> ①受検上の配慮申請書 ②診断書

【イ】聴覚に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
①両耳の平均聴力レベル※が60デシベル以上の者 ※「両耳の平均聴力レベル」とは、右耳・左耳それぞれの平均聴力レベルであることを意味します。 ②上記以外で特別措置を希望する者	<ul style="list-style-type: none"> 試験開始・終了の明確な伝達 試験実施に関する手話もしくは文字による説明動画を搭載したタブレットや紙資料の準備 	<ul style="list-style-type: none"> 免除 補聴器、人工内耳の装着 時間延長 別室受検 音声聴取の方法についての配慮 (ヘッドホンの使用/イヤホンの使用/スピーカー使用、連続方式) ヘッドホン等の装着補助 音声プレーヤーの操作補助 試験官の口頭指示の際の補助 			<ul style="list-style-type: none"> 免除 補聴器、人工内耳の装着 別室受検 音声聴取の方法についての配慮 (ヘッドホンの使用/イヤホンの使用/スピーカー使用、連続方式) ヘッドホン等の装着補助 音声プレーヤーの操作補助 試験官の口頭指示の際の補助 一部の問題に対して、問題カードの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ①受検上の配慮申請書 ②診断書

【ウ】肢体不自由に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
①体幹の機能障害により座位を保つことができない者又は困難な者 ②両上肢の機能障害が著しい者 ③①②以外で解答用紙にマークすることが困難な者 ④下肢障害者	<ul style="list-style-type: none"> 試験室までの介助者の同伴許可 (試験時間除く) (監督者による補助は、症状によって都度ご相談) 会場に関する配慮 (バリアフリー会場、座席配置 (出入口付近等) など、症状によって都度ご相談) 座席配置 (車いす等スペース確保、出入口付近等) の配慮 特製机・椅子の持参使用又は試験場側の準備 (要相談の上で対応可否判断) 車いすの持参使用 杖の持参使用 文鎮などの補助用具の持ち込み 試験室入り口までの付添者の同伴 試験場への乗用車での入構 時間延長 別室受検 タブレット・PC操作の補助 代筆解答 (※症状によって都度ご相談) 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大文字問題冊子 PCの画面の拡大表示 (CBT) 問題用紙への直接解答 問題用紙・解答用紙のページめくりの補助 音声聴取の方法についての配慮 (ヘッドホンの使用/イヤホンの使用/スピーカー使用、連続方式) ヘッドホン等の装着補助 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大文字問題冊子 PCの画面の拡大表示 (CBT) 問題用紙への直接解答 問題用紙・解答用紙のページめくりの補助 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大文字問題冊子 PCの画面の拡大表示 (CBT) タブレットによるタイプ解答 (※個に応じた入力装置の使用は都度ご相談) 	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドホン等の装着補助 音声プレーヤーの操作補助 PCの画面の拡大表示 (CBT) 拡大文字問題冊子・通常タブレットの使用 一部の問題に対して、問題カードの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ①受検上の配慮申請書 ②診断書

【エ】病弱に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
病弱者	<ul style="list-style-type: none"> 1階又はエレベーターが利用可能な試験室での受検 会場に関する配慮 (バリアフリー会場、座席配置 (出入口付近等) など、症状によって都度ご相談) 杖の持参使用 試験室入り口までの付添者の同伴 試験場への乗用車での入構 別室受検 					<ul style="list-style-type: none"> ①受検上の配慮申請書 ②診断書

【オ】発達障害に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
発達障害の症状のある者	<ul style="list-style-type: none"> 時間延長 別室受検 使いやすしい筆記用具、文房具の使用許可 蛍光灯等の光の過敏対策のためのサンングラスや帽子、色付きのオーバレイ等の使用許可 音の過敏対策のためのイヤーマフやノイズキャンセリングイヤホン等の使用許可 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大文字問題冊子 PCの画面の拡大表示 (CBT) 問題用紙への直接解答 座席指定 (後列、出入口付近側など) 音声聴取の方法についての配慮 (ヘッドホンの使用/イヤホンの使用/スピーカー使用、連続方式) ヘッドホン等の装着補助 音声プレーヤーの操作補助 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大文字問題冊子 PCの画面の拡大表示 (CBT) 問題用紙への直接解答 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大文字問題冊子 PCの画面の拡大表示 (CBT) 問題用紙への直接解答 	<ul style="list-style-type: none"> PCの画面の拡大表示 (CBT) 音声聴取の方法についての配慮 (ヘッドホンの使用/イヤホンの使用/スピーカー使用、連続方式) 拡大文字問題冊子・通常タブレットの使用 一部の問題に対して、問題カードの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ①受検上の配慮申請書 ②診断書

【カ】その他の配慮事項 (【ア】～【オ】の区分以外の者)

対象となる者	配慮する事項 (例)					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
きつ音・発話障がい					<ul style="list-style-type: none"> 時間延長や採点拠点への情報の事前連携 (症状に応じて、免除も可) ※公平性を考慮し、評価の観点は他の受検者と同様 	

障がい等のある受検生への合理的な配慮 配慮内容例

TEAP

試験名：TEAP

※各区分に記載している「配慮する事項」は、代表的な事項を例として掲載しています。なお、表に記載がない受検上の配慮を希望する場合は、各資格・検定試験実施主体に相談してください。（英検サービスセンター TEAP運営事務局 03-3266-6556） *TEAP CBTについては、障がい等のある方への特別措置対応は、「TEAP」にて承っております。

【ア】視覚に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)				必要な提出書類	
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング		
全盲の方		<ul style="list-style-type: none"> 別室 解答時間 延長 (通常10秒→20秒) Part 1C 図表の理解と組み合わせた英文の聞き取り (5問) 免除 Part 2B 長い英文の聞き取り (図表も含む) …不自由の度合いを考慮し、表・数値・グラフ等で出題 点字 (2級点字 (縮約使用)) の問題冊子を使用して受験し、点字用解答用紙に解答する方法 	<ul style="list-style-type: none"> 別室 時間延長 Part 2A 図表の読み取り …不自由の度合いを考慮し、表・数値・グラフ等で出題 Part 3B 長い英文の読み取り (図表も含む) …不自由の度合いを考慮し、表・数値・グラフ等で出題 点字 (2級点字 (縮約使用)) の問題冊子を使用して受験し、点字用解答用紙に解答する方法 	<ul style="list-style-type: none"> 別室 時間延長 問題文中の図表については、不自由の度合いを考慮し、グラフまたは数値化等で出題 拡大墨字A3での実施 弱視用のA3問題冊子 (25Pゴシック系文字) を使用して受験し、A3の拡大文字解答用紙に解答番号を書き込む方法 普通墨字A4での実施 弱視用のA4問題冊子 (18Pゴシック系文字) を使用して受験し、A4の文字解答用紙に解答番号を書き込む方法 オプテスコープでの実施 弱視用のA4問題冊子 (18Pゴシック系文字) をオプテスコープで拡大して受験し、直接問題冊子に○をつけて解答する方法 	<ul style="list-style-type: none"> 一般同室 (優先受験) 別室 トピックカードの読み取り時間の延長措置 (障害手帳のコピー、医師の診断書等) 点字 (2級点字 (縮約使用)) のトピックカードを使用して受験 	<ul style="list-style-type: none"> TEAP特別措置申請書 障がい程度を証明する書類 (障害手帳のコピー、医師の診断書等) 状況報告書 (一部の措置のみ)
障害等級が6級程度より重度の視覚障がい者の方	<ul style="list-style-type: none"> 機器の持参使用 (点字盤、パーキンス、ルーペ・拡大機器、オプテスコープ、照明器具、触知時計) 介助者の同伴 (試験中は除く) 乗用車での来場 	<ul style="list-style-type: none"> 別室 解答時間 延長 (通常10秒→20秒) Part 1C 図表の理解と組み合わせた英文の聞き取り (5問) 免除 Part 2B 長い英文の聞き取り (図表も含む) …不自由の度合いを考慮し、表・数値・グラフ等で出題 拡大墨字A3での実施 弱視用のA3問題冊子 (25Pゴシック系文字) を使用して受験し、A3の拡大文字解答用紙に解答番号を書き込む方法 普通墨字A4での実施 弱視用のA4問題冊子 (18Pゴシック系文字) を使用して受験し、A4の文字解答用紙に解答番号を書き込む方法 オプテスコープでの実施 弱視用のA4問題冊子 (18Pゴシック系文字) をオプテスコープで拡大して受験し、直接問題冊子に○をつけて解答する方法 	<ul style="list-style-type: none"> 別室 時間延長 Part 2A 図表の読み取り …不自由の度合いを考慮し、表・数値・グラフ等で出題 Part 3B 長い英文の読み取り (図表も含む) …不自由の度合いを考慮し、表・数値・グラフ等で出題 拡大墨字A3での実施 弱視用のA3問題冊子 (25Pゴシック系文字) を使用して受験し、A3の拡大文字解答用紙に解答番号を書き込む方法 普通墨字A4での実施 弱視用のA4問題冊子 (18Pゴシック系文字) を使用して受験し、A4の文字解答用紙に解答番号を書き込む方法 オプテスコープでの実施 弱視用のA4問題冊子 (18Pゴシック系文字) をオプテスコープで拡大して受験し、直接問題冊子に○をつけて解答する方法 	<ul style="list-style-type: none"> 一同室 (優先受験) 別室 (オプテスコープ) ※機器設置・撤収のため (優先受験) トピックカードの読み取り時間の延長措置 拡大墨字A3での実施 ※25Pゴシック系文字を使用した拡大トピックカードで受験 普通墨字A4での実施 ※18Pゴシック系文字を使用したトピックカードで受験 オプテスコープでの実施 通常のトピックカードをオプテスコープで拡大して受験 		
それ以外の視覚障がい者の方	<ul style="list-style-type: none"> 文字解答 文字解答用紙に解答番号を書き込む方法 	<ul style="list-style-type: none"> 文字解答 文字解答用紙に解答番号を書き込む方法 	<ul style="list-style-type: none"> 文字解答 解答を文字解答用紙に書き込む方法 	<ul style="list-style-type: none"> 優先受験 受験者の不自由の度合いを考慮して面接室に誘導し、優先的に面接を受けてもらう措置 		

【イ】聴覚に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)				必要な提出書類	
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング		
障害等級が6級程度より重度の聴覚障がい者の方	<ul style="list-style-type: none"> 機器の持参使用 (補聴器、FMマイク付き補聴器) 	<ul style="list-style-type: none"> リスニングテスト免除 …不自由の度合いを考慮し、リスニングテストを免除 ※強音放送 …リスニングテストを別室にてボリュームを上げて受験 	<ul style="list-style-type: none"> ※座席配置 …リスニングテストの座席配置措置のため、スピーカー近くに座席を配席して受験 ※強音放送のみ別室 ※受験者心得を文字で提供 	<ul style="list-style-type: none"> ※座席配置 …リスニングテストの座席配置措置のため、スピーカー近くに座席を配席して受験 ※強音放送のみ別室 ※受験者心得を文字で提供 	<ul style="list-style-type: none"> スピーキングテスト免除 …不自由の度合いを考慮し、スピーキングテストを免除 ※FC+口話 …Examinerからの指示・質問およびPart 2でのロールプレイでは、英文が書かれたフラッシュカードを提示。受験者は口頭発話で応答・発音 ※受験者心得を文字で提供 ※一般同室 (優先受験) ※フラッシュカード提示のため、通常時間よりは長くなる ※大音量 …通常通りの面接を行うが、初めに聞こえ具合を確認し、大きめの声で行う ※一般同室 (優先受験) 	<ul style="list-style-type: none"> TEAP特別措置申請書 障がい程度を証明する書類 (障害手帳のコピー、医師の診断書等) 状況報告書 (一部の措置のみ)
それ以外の聴覚障がい者の方	<ul style="list-style-type: none"> 座席配置 …スピーカー近くに座席を配席 	<ul style="list-style-type: none"> 座席配置 …リスニングテストの座席配置措置のため、スピーカー近くに座席を配席 	<ul style="list-style-type: none"> 座席配置 …リスニングテストの座席配置措置のため、スピーカー近くに座席を配席 	<ul style="list-style-type: none"> 座席配置 …スピーキングテストの座席配置措置のため、スピーカー近くに座席を配席 		

【ウ】肢体不自由に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)				必要な提出書類	
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング		
障害等級が4級程度より重度の上肢障がい者で著しく困難な方	<ul style="list-style-type: none"> 机の持参使用 車椅子の持参使用 介助者の同伴 (試験中は除く) 乗用車での来場 	<ul style="list-style-type: none"> 口述解答 …上肢が不自由なため自力での解答が困難な場合に、受験者が口述した解答の選択肢を、試験監督者がマークシートに転記する方法 ※別室 ※チェック解答 (時間延長あり) …上肢が不自由なためマークシートではなく問題冊子に直接○をつけて解答する方法。問題冊子は事前申告にあわせ、拡大 (A3) と普通 (A4) の内、どちらかを使用 ※別室 ※解答時間延長 (通常10秒→20秒) 	<ul style="list-style-type: none"> 口述解答 …上肢が不自由なため自力での解答が困難な場合に、受験者が口述した解答の選択肢を、試験監督者がマークシートに転記する方法 ※別室 ※チェック解答 (時間延長あり) …上肢が不自由なためマークシートではなく問題冊子に直接○をつけて解答する方法。問題冊子は事前申告にあわせ、拡大 (A3) と普通 (A4) の内、どちらかを使用 ※別室 ※時間延長 	<ul style="list-style-type: none"> ライティングテスト免除 …不自由の度合いを考慮し、ライティングテストを免除 ※拡大解答用紙への解答 …上肢が不自由なため拡大解答用紙に解答する方法。解答用紙は事前申告にあわせ、拡大 (A3) と普通 (A4) の内、どちらかを使用 ※別室 ※時間延長 …PCによる解答 …上肢が不自由なため自力での解答が困難な場合に協会が用意するタブレットPCを用いて、テキスト文書を作成して解答する方法。Wordなどの文書作成ソフトは使用できない。タブレットPCにはタッチペンが付属 ※別室 ※時間延長 ※事前申請により許可 (キーボード持込、マウス持込) ※USB差込口は1つ ※個人PCの持込不可 ※ソフトウェアのインストール不可 	<ul style="list-style-type: none"> 優先受験 …受験者の不自由の度合いを考慮して面接室に誘導し、優先的に面接を受けてもらう措置。スピーキングテストの実施方法は通常通り ※一般同室 (優先受験) 	<ul style="list-style-type: none"> TEAP特別措置申請書 障がい程度を証明する書類 (障害手帳のコピー、医師の診断書等) 状況報告書 (一部の措置のみ)
上記以外の上肢障がい者の方	<ul style="list-style-type: none"> チェック解答 (時間延長なし) …上肢が不自由なためマークシートではなく問題冊子に直接○をつけて解答する方法。問題冊子は事前申告にあわせ、拡大 (A3) と普通 (A4) の内、どちらかを使用 ※別室 ※試験会場内での移動や座席の配置に配慮。※会場設備により別室受験となる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> チェック解答 (時間延長なし) …上肢が不自由なためマークシートではなく問題冊子に直接○をつけて解答する方法。問題冊子は事前申告にあわせ、拡大 (A3) と普通 (A4) の内、どちらかを使用 ※別室 ※試験会場内での移動や座席の配置に配慮。※会場設備により別室受験となる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大解答用紙への解答 …上肢が不自由なため拡大解答用紙に解答する方法。解答用紙は事前申告にあわせ、拡大 (A3) と普通 (A4) の内、どちらかを使用 ※別室 ※時間延長 	<ul style="list-style-type: none"> 優先受験 …受験者の不自由の度合いを考慮して面接室に誘導し、優先的に面接を受けてもらう措置。スピーキングテストの実施方法は通常通り ※一般同室 (優先受験) 		
下肢障がい者の方・体幹機能障がい者の方	<ul style="list-style-type: none"> 試験会場内での移動や座席の配置に配慮。※会場設備により別室受験となる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 試験会場内での移動や座席の配置に配慮。※会場設備により別室受験となる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 試験会場内での移動や座席の配置に配慮。※会場設備により別室受験となる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 優先受験 …受験者の不自由の度合いを考慮して面接室に誘導し、優先的に面接を受けてもらう措置。スピーキングテストの実施方法は通常通り ※一般同室 (優先受験) 		

【エ】病弱に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)				必要な提出書類	
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング		
病弱体質で特別措置申請をされた方	<ul style="list-style-type: none"> 机の持参使用 介助者の同伴 (試験中は除く) 乗用車での来場 車椅子の持参使用 	<ul style="list-style-type: none"> 試験会場内での移動や座席の配置に配慮。※会場設備により別室受験となる場合がある ※別室 (時間延長なし) …受験者の状況により必要と判断された場合は別室での受験を設定。試験方法は一般と同一 	<ul style="list-style-type: none"> 試験会場内での移動や座席の配置に配慮。※会場設備により別室受験となる場合がある ※別室 (時間延長なし) …受験者の状況により必要と判断された場合は別室での受験を設定。試験方法は一般と同一 	<ul style="list-style-type: none"> 試験会場内での移動や座席の配置に配慮。※会場設備により別室受験となる場合がある ※別室 (時間延長なし) …受験者の状況により必要と判断された場合は別室での受験を設定。試験方法は一般と同一 	<ul style="list-style-type: none"> 優先受験 …受験者の不自由の度合いを考慮して面接室に誘導し、優先的に面接を受けてもらう措置。スピーキングテストの実施方法は通常通り ※一般同室 (優先受験) 	<ul style="list-style-type: none"> TEAP特別措置申請書 障がい程度を証明する書類 (障害手帳のコピー、医師の診断書等) 状況報告書 (一部の措置のみ)
【オ】発達障害に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 介助者の同伴 (試験中は除く) 乗用車での来場 	<ul style="list-style-type: none"> 座席配置 …受験者の状況により教室内の座席を予め設定。試験方法は一般と同一 ※時間延長 …学習障がい等により必要と判断された場合は、試験時間を延長し、別室での受験を設定。技能別に申請できる ※解答時間延長 (通常10秒→20秒) ※別室 ※別室 (時間延長なし) …受験者の状況により必要と判断された場合は別室での受験を設定。試験方法は一般と同一 ※解答方法 …マークシート以外での解答方法を希望する場合は、視覚障がい者用・上肢障がい者用の資材を転用できる。申請書の「特記事項」欄にその旨を記載 	<ul style="list-style-type: none"> 座席配置 …受験者の状況により教室内の座席を予め設定。試験方法は一般と同一 ※時間延長 …学習障がい等により必要と判断された場合は、試験時間を延長し、別室での受験を設定。技能別に申請できる ※別室 ※別室 (時間延長なし) …受験者の状況により必要と判断された場合は別室での受験を設定。試験方法は一般と同一 ※解答方法 …マークシート以外での解答方法を希望する場合は、視覚障がい者用・上肢障がい者用の資材を転用できる。申請書の「特記事項」欄にその旨を記載 	<ul style="list-style-type: none"> 座席配置 …受験者の状況により教室内の座席を予め設定。試験方法は一般と同一 ※時間延長 …学習障がい等により必要と判断された場合は、試験時間を延長し、別室での受験を設定。技能別に申請できる ※別室 ※別室 (時間延長なし) …受験者の状況により必要と判断された場合は別室での受験を設定。試験方法は一般と同一 ※解答方法 …マークシート以外での解答方法を希望する場合は、視覚障がい者用・上肢障がい者用の資材を転用できる。申請書の「特記事項」欄にその旨を記載 	<ul style="list-style-type: none"> 優先受験 …受験者の不自由の度合いを考慮して面接室に誘導し、優先的に面接を受けてもらう措置。スピーキングテストの実施方法は通常通り ※一般同室 (優先受験) 	

【オ】発達障害に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)				必要な提出書類	
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング		
発達障害がいて特別措置申請をされた方	<ul style="list-style-type: none"> 介助者の同伴 (試験中は除く) 乗用車での来場 	<ul style="list-style-type: none"> 座席配置 …受験者の状況により教室内の座席を予め設定。試験方法は一般と同一 ※時間延長 …学習障がい等により必要と判断された場合は、試験時間を延長し、別室での受験を設定。技能別に申請できる ※解答時間延長 (通常10秒→20秒) ※別室 ※別室 (時間延長なし) …受験者の状況により必要と判断された場合は別室での受験を設定。試験方法は一般と同一 ※解答方法 …マークシート以外での解答方法を希望する場合は、視覚障がい者用・上肢障がい者用の資材を転用できる。申請書の「特記事項」欄にその旨を記載 	<ul style="list-style-type: none"> 座席配置 …受験者の状況により教室内の座席を予め設定。試験方法は一般と同一 ※時間延長 …学習障がい等により必要と判断された場合は、試験時間を延長し、別室での受験を設定。技能別に申請できる ※別室 ※別室 (時間延長なし) …受験者の状況により必要と判断された場合は別室での受験を設定。試験方法は一般と同一 ※解答方法 …マークシート以外での解答方法を希望する場合は、視覚障がい者用・上肢障がい者用の資材を転用できる。申請書の「特記事項」欄にその旨を記載 	<ul style="list-style-type: none"> 座席配置 …受験者の状況により教室内の座席を予め設定。試験方法は一般と同一 ※時間延長 …学習障がい等により必要と判断された場合は、試験時間を延長し、別室での受験を設定。技能別に申請できる ※別室 ※別室 (時間延長なし) …受験者の状況により必要と判断された場合は別室での受験を設定。試験方法は一般と同一 ※解答方法 …マークシート以外での解答方法を希望する場合は、視覚障がい者用・上肢障がい者用の資材を転用できる。申請書の「特記事項」欄にその旨を記載 	<ul style="list-style-type: none"> 優先受験 …受験者の不自由の度合いを考慮して面接室に誘導し、優先的に面接を受けてもらう措置。スピーキングテストの実施方法は通常通り ※一般同室 (優先受験) 	<ul style="list-style-type: none"> TEAP特別措置申請書 障がい程度を証明する書類 (障害手帳のコピー、医師の診断書等) 状況報告書 (一部の措置のみ)
【カ】その他の配慮事項 (【ア】～【オ】の区分以外の者)	<ul style="list-style-type: none"> 介助者の同伴 (試験中は除く) 	<ul style="list-style-type: none"> スピーキングテスト免除 …不自由の度合いを考慮しスピーキングテストを免除 ※一般同室 (優先受験) 	<ul style="list-style-type: none"> スピーキングテスト免除 …不自由の度合いを考慮しスピーキングテストを免除 ※一般同室 (優先受験) 	<ul style="list-style-type: none"> スピーキングテスト免除 …不自由の度合いを考慮しスピーキングテストを免除 ※一般同室 (優先受験) 	<ul style="list-style-type: none"> スピーキングテスト免除 …不自由の度合いを考慮しスピーキングテストを免除 ※一般同室 (優先受験) 	

【カ】その他の配慮事項 (【ア】～【オ】の区分以外の者)

対象となる者	配慮する事項 (例)				必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	
器質性、運動障がい性で特別措置申請をされた方				<ul style="list-style-type: none"> スピーキングテスト免除 …不自由の度合いを考慮しスピーキングテストを免除 ※一般同室 (優先受験) 	<ul style="list-style-type: none"> TEAP特別措置申請書 障がい程度を証明する書類 (障害手帳のコピー、医師の診断書等) 状況報告書 (一部の措置のみ)
吃音症その他で特別措置申請をされた方	<ul style="list-style-type: none"> 介助者の同伴 (試験中は除く) 			<ul style="list-style-type: none"> スピーキングテスト免除 …不自由の度合いを考慮しスピーキングテストを免除 ※一般同室 (優先受験) 	

障がい等のある受検生への合理的な配慮 配慮内容例

試験名：英検CBT

※各区分に記載している「配慮する事項」は、代表的な事項を例として掲載しています。なお、表に記載がない受検上の配慮を希望する場合は、各資格・検定試験実施主体に相談してください。（英検サービスセンター 英検CBT係 03-3266-8180）

【ア】視覚に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
全盲の方	ー（共通IDを利用して受験する方は「英検2020 2days S-Interview」での受験をご検討ください）					・障がい等のある方への受験上の配慮申請書
弱視（障害程度等級が6級より重度）の方	【虫眼鏡、ルーペの持込み使用】（電子ルーペの場合は拡大/ライト機能のみ使用可） 【座席配慮】（試験教室の出入り口付近の座席）					
それ以外の視覚障がい者の方						

【イ】聴覚に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
障害程度等級が6級以上の方	【補聴器の持込み使用】					・障がい等のある方への受験上の配慮申請書
それ以外の難聴者の方						

【ウ】肢体不自由に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
障害程度等級が4級以上の上肢障がい者の方	ー（共通IDを利用して受験する方は「英検2020 2days S-Interview」での受験をご検討ください）					・障がい等のある方への受験上の配慮申請書
上記以外の上肢障がい者の方	ー（共通IDを利用して受験する方は「英検2020 2days S-Interview」での受験をご検討ください）					
下肢障がい者の方・体幹機能障がい者の方	【車椅子での受験】 【座席配慮】（試験教室の出入り口付近の座席）					

【エ】病弱に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
病弱体質で特別措置申請をされた方	【車椅子での受験】 【座席配慮】（試験教室の出入り口付近の座席） 【「イヤーマフ」（雑音遮断）の持込み使用】					・障がい等のある方への受験上の配慮申請書

【オ】発達障害に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
発達障がい等で特別措置申請をされた方	【車椅子での受験】 【座席配慮】（試験教室の出入り口付近の座席） 【「イヤーマフ」（雑音遮断）の持込み使用】					・障がい等のある方への受験上の配慮申請書

【カ】その他の配慮事項（【ア】～【オ】の区分以外の者）

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
器質性、運動障がい性で特別措置申請をされた方	ー（共通IDを利用して受験する方は「英検2020 2days S-Interview」での受験をご検討ください）					・障がい等のある方への受験上の配慮申請書
吃音症その他で特別措置申請をされた方						

障がい等のある受検生への合理的な配慮 配慮内容例

英検2020 1 day S-CBT

試験名：英検2020 1 day S-CBT

※各区分に記載している「配慮する事項」は、代表的な事項を例として掲載しています。なお、表に記載がない受検上の配慮を希望する場合は、各資格・検定試験実施主体に相談してください。（英検サービスセンター）

【ア】視覚に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において 配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
全盲の方	ー（共通IDを利用して受験する方は「英検2020 2days S-Interview」での受験をご検討ください）					<ul style="list-style-type: none"> 障がい等のある方への受験上の配慮申請書 障がいの程度を証明する書類
弱視（障害程度等級が6級より重度）の方	【虫眼鏡、ルーペの持込み使用】（電子ルーペの場合は拡大/ライト機能のみ使用可） 【座席配慮】（試験教室の出入り口付近の座席）					
それ以外の視覚障がい者の方						

【イ】聴覚に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において 配慮する事項	リスニング		ライティング	スピーキング	
障害程度等級が6級以上の方	【補聴器の持込み使用】					<ul style="list-style-type: none"> 障がい等のある方への受験上の配慮申請書 障がいの程度を証明する書類
それ以外の難聴者の方						

【ウ】肢体不自由に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において 配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
障害程度等級が4級以上の上肢障がい者の方	ー（共通IDを利用して受験する方は「英検2020 2days S-Interview」での受験をご検討ください）					<ul style="list-style-type: none"> 障がい等のある方への受験上の配慮申請書 障がいの程度を証明する書類
上記以外の上肢障がい者の方	ー（共通IDを利用して受験する方は「英検2020 2days S-Interview」での受験をご検討ください）					
下肢障がい者の方・体幹機能障がい者の方	【車椅子での受験】 【座席配慮】（試験教室の出入り口付近の座席）					

【エ】病弱に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において 配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
病弱体質で特別措置申請をされた方	【車椅子での受験】 【座席配慮】（試験教室の出入り口付近の座席） 【「イヤーマフ」（雑音遮断）の持込み使用】					<ul style="list-style-type: none"> 障がい等のある方への受験上の配慮申請書 障がいの程度を証明する書類

【オ】発達障害に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において 配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
発達障がい等で特別措置申請をされた方	【車椅子での受験】 【座席配慮】（試験教室の出入り口付近の座席） 【「イヤーマフ」（雑音遮断）の持込み使用】					<ul style="list-style-type: none"> 障がい等のある方への受験上の配慮申請書 障がいの程度を証明する書類

【カ】その他の配慮事項（【ア】～【オ】の区分以外の者）

対象となる者	配慮する事項（例）					必要な提出書類
	全ての技能において 配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング	スピーキング	
器質性、運動障がい等で特別措置申請をされた方	ー（共通IDを利用して受験する方は「英検2020 2days S-Interview」での受験をご検討ください）					<ul style="list-style-type: none"> 障がい等のある方への受験上の配慮申請書 障がいの程度を証明する書類
吃音症その他で特別措置申請をされた方						

障がい等のある受検生への合理的な配慮 配慮内容例

英検2020 2 days S-Interview

試験名：英検2020 2 days S-Interview

※各区分に記載している「配慮する事項」は、代表的な事項を例として掲載しています。なお、表に記載がない受験上の配慮を希望する場合は、各資格・検定試験実施主体に相談してください。（英検サービスセンター 障がい者特別措置係 03-3266-6507）

【ア】視覚に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)				必要な提出書類	
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング		スピーキング
全盲の方		・別室 ・解答時間 延長 (通常10秒⇒20秒) ・点字での実施 …点字の問題冊子を使用して受験し、点字用解答用紙に解答。3級のリスニング第1部ではイラストを用いず、イラストの日本語説明文に置き換え。	・別室 ・解答時間 延長 (通常の1.5倍) ・点字での実施 …点字の問題冊子を使用して受験し、点字用解答用紙に解答。3級のリスニング第1部ではイラストを用いず、イラストの日本語説明文に置き換え。		・一般同室 (優先受験) ・点字の問題カードを使用して受験。イラストについては、イラスト説明文で代用。	
障害等級が6級程度より重度の視覚障がいの方	・機器の持参使用 (点字盤、パーキンス、ルーペ・拡大機器、オプティクスコープ、照明器具、触知時計) ・介助者の同伴 (試験中は除く) ・乗用車での来場	・別室 ・解答時間 延長 (通常10秒⇒20秒) ・拡大黒字A3での実施 …弱視用のA3問題冊子 (25Pゴシック体文字) を使用して受験し、A3の拡大文字解答用紙に解答番号を書き込む方法。 ・普通黒字A4での実施 …弱視用のA4問題冊子 (18Pゴシック体文字) を使用して受験し、A4の文字解答用紙に解答番号を書き込む方法。 ・オプティクスコープでの実施 …通常問題のコピー (A4) をオプティクスコープで拡大して受験し、直接問題冊子に○をつけて解答する方法。	・別室 ・解答時間 延長 (通常の1.5倍) ・拡大黒字A3での実施 …弱視用のA3問題冊子 (25Pゴシック体文字) を使用して受験し、A3の拡大文字解答用紙に解答番号を書き込む方法。 ・普通黒字A4での実施 …弱視用のA4問題冊子 (18Pゴシック体文字) を使用して受験し、A4の文字解答用紙に解答番号を書き込む方法。 ・オプティクスコープでの実施 …通常問題のコピー (A4) をオプティクスコープで拡大して受験し、直接問題冊子に○をつけて解答する方法。		・一般同室 (優先受験) ・別室 (オプティクスコープ) ※機器設置・撤収のため (優先受験) ・拡大黒字A3 弱視用のA3問題カード (25Pゴシック体文字) を使用。イラストにはイラスト説明文が付記されている。 ・普通黒字A4 弱視用のA4問題カード (18Pゴシック体文字) を使用。イラストにはイラスト説明文が付記されている。 ・普通黒字 (オプティクスコープ使用) 弱視用のA4問題カード (18Pゴシック体文字) をオプティクスコープで拡大して受験	・英検2020 2 days S-Interview受験上の配慮申請 ・障がいの程度を証明する書類 (障害手帳のコピー、医師の診断書等)
それ以外の視覚障がいの方	・機器の持参使用 (ルーペ・拡大機器、照明器具、触知時計) ・介助者の同伴 (試験中は除く) ・乗用車での来場	・文字解答 文字解答用紙に解答番号を書き込む方法。		・文字解答 解答を文字解答用紙に書き込む方法。	・優先受験 受験者の不自由の度合いを考慮して面接室に誘導し、優先的に面接を受けてもらう措置。	

【イ】聴覚に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)				必要な提出書類	
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング		スピーキング
障害等級が6級程度より重度の聴覚障がいの方	・機器の持参使用 (補聴器、FMマイク付き補聴器) ・介助者の同伴 (試験中は除く) ・乗用車での来場	・テロップ …リスニングテストを音声でなく文字で映し受検。 ・強音放送 …リスニングテストを別室にてボリュームを上げて受験。 ・座席配置 …リスニングテストの座席配置措置のため、スピーカー近くに座席を配置して受験。 ※テロップのみ受験者心得を文字で提供 ※座席配置のみ同室			・筆談 面接委員からの指示や質問はフラッシュカード (FC) で提示。受験者は、FCを見て質問に対する応答を英文で書いて解答。 ※応答記入時間を設定 (級・設問により異なる) ・FC+口話 面接委員からの指示や質問はフラッシュカード (FC) で提示。受験者は、FCを見て質問に対する応答を口話で解答。 ・大声 通常通りの面接を行うが、初めに聞こえ具合を確認し、大きめの声で行う。 ※一般同室 (優先受験) ※筆談、FC+口話については、FC提示のため、通常時間よりは長くなる。	・英検2020 2 days S-Interview受験上の配慮申請 ・障がいの程度を証明する書類 (障害手帳のコピー、医師の診断書等)
それ以外の難聴者の方		・座席配置 リスニングテストの座席配置措置のため、スピーカー近くに座席を配置。			・大声 通常通りの面接を行うが、初めに聞こえ具合を確認し、大きめの声で行う。 ※一般同室 (優先受験)	

【ウ】肢体不自由に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)				必要な提出書類	
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング		スピーキング
障害等級が4級程度より重度の上肢障がい者で書字ができないまたは著しく困難な方	・車椅子の持参使用 ・介助者の同伴 (試験中は除く) ・乗用車での来場 ・机の持参使用可	・チェック解答 (時間延長あり) 上肢が不自由なためマークシートではなく問題冊子に直接○をつけて解答する方法。問題冊子は事前申告にあわせ、拡大 (A3) と普通 (A4) の内、どちらかを使用。 ※別室 ※解答時間延長 (通常10秒⇒20秒) ・PCによる解答 上肢が不自由なため協会が用意するWindows搭載のタブレットPCを用いて、テキスト文書を作成して解答する方法。Wordなどの文章作成ソフトは使用できない。(申請後に同意書の提出が必要) タブレットPCにはタッチペンが付属。 ※別室 ※時間延長 (通常10秒⇒20秒) ※事前申請により許可 ※キーボード持込 ※マウス持込 ※USB差込口は1つ ※個人PCの持込不可 ※ソフトウェアのインストール不可	・チェック解答 (時間延長あり) 上肢が不自由なためマークシートではなく問題冊子に直接○をつけて解答する方法。問題冊子は事前申告にあわせ、拡大 (A3) と普通 (A4) の内、どちらかを使用。 ※別室 ※解答時間延長 (通常の1.5倍) ・PCによる解答 上肢が不自由なため協会が用意するWindows搭載のタブレットPCを用いて、テキスト文書を作成して解答する方法。Wordなどの文章作成ソフトは使用できない。(申請後に同意書の提出が必要) タブレットPCにはタッチペンが付属。 ※別室 ※解答時間延長 (通常の1.5倍) ※事前申請により許可 ※キーボード持込 ※マウス持込 ※USB差込口は1つ ※個人PCの持込不可 ※ソフトウェアのインストール不可		・優先受験 受験者の不自由の度合いを考慮して面接室に誘導し、優先的に面接を受けてもらう措置。スピーキングテストの実施方法は通常通り。 ※一般同室 (優先受験)	・英検2020 2 days S-Interview受験上の配慮申請 ・障がいの程度を証明する書類 (障害手帳のコピー、医師の診断書等)
上記以外の上肢障がいの方		・チェック解答 (時間延長なし) 上肢が不自由なためマークシートではなく問題冊子に直接○をつけて解答する方法。問題冊子は事前申告にあわせ、拡大 (A3) と普通 (A4) の内、どちらかを使用。			・優先受験 …受験者の不自由の度合いを考慮して面接室に誘導し、優先的に面接を受けてもらう措置。スピーキングテストの実施方法は通常通り。 ※一般同室 (優先受験)	
下肢障がい者の方・体幹機能障がいの方		・試験会場内での移動や座席の配置に配慮。 ※会場設備により別室受験となる場合がある。			・優先受験 …受験者の不自由の度合いを考慮して面接室に誘導し、優先的に面接を受けてもらう措置。スピーキングテストの実施方法は通常通り。 ※一般同室 (優先受験)	

【エ】病弱に関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)				必要な提出書類	
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング		スピーキング
病弱体質で特別措置申請をされた方	・介助者の同伴 (試験中は除く) ・乗用車での来場 ・車椅子の持参使用	・試験会場内での移動や座席の配置に配慮。 ※会場設備により別室受験となる場合がある。 ・別室 (時間延長なし) 受験者の状況により必要と判断された場合は別室での受験を設定。試験方法は一般と同一。 ・机の持参使用			・優先受験 …受験者の不自由の度合いを考慮して面接室に誘導し、優先的に面接を受けてもらう措置。スピーキングテストの実施方法は通常通り。 ※一般同室 (優先受験)	・英検2020 2 days S-Interview受験上の配慮申請 ・障がいの程度を証明する書類 (障害手帳のコピー、医師の診断書等)

【オ】発達障がいに関する配慮事項

対象となる者	配慮する事項 (例)				必要な提出書類	
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング		スピーキング
発達障がい者で特別措置申請をされた方	・介助者の同伴 (試験中は除く) ・乗用車での来場	・座席配置 …受験者の状況により教室内での座席を予め設定。試験方法は一般と同一。 ・時間延長 …学習障がい等により必要と判断された場合は、試験時間を延長し、別室での受験を設定。 ※解答時間延長 (通常10秒⇒20秒) ※別室 ・別室 (時間延長なし) …受験者の状況により必要と判断された場合は別室での受験を設定。試験方法は一般と同一。 ・解答方法 …マークシート以外での解答方法を希望する場合は、視覚障がい者用・上肢障がい者用の資材を転用できる。申請書の「特記事項」欄にその旨を記載。	・座席配置 …受験者の状況により教室内での座席を予め設定。試験方法は一般と同一。 ・時間延長 …学習障がい等により必要と判断された場合は、試験時間を延長し、別室での受験を設定。 ※解答時間延長 (通常の1.5倍) ※別室 ・別室 (時間延長なし) …受験者の状況により必要と判断された場合は別室での受験を設定。試験方法は一般と同一。 ・解答方法 …マークシート以外での解答方法を希望する場合は、視覚障がい者用・上肢障がい者用の資材を転用できる。申請書の「特記事項」欄にその旨を記載。		・優先受験 …受験者の不自由の度合いを考慮して面接室に誘導し、優先的に面接を受けてもらう措置。スピーキングテストの実施方法は通常通り。 ※一般同室 (優先受験)	・英検2020 2 days S-Interview受験上の配慮申請 ・障がいの程度を証明する書類 (障害手帳のコピー、医師の診断書等)

【カ】その他の配慮事項 (【ア】～【オ】の区分以外の者)

対象となる者	配慮する事項 (例)				必要な提出書類	
	全ての技能において配慮する事項	リスニング	リーディング	ライティング		スピーキング
器質性、運動障がい者で特別措置申請をされた方	・介助者の同伴 (試験中は除く)	(RLW試験については、発声を必要としないため、音声言語障がいの方への特別な対応は不要)			・筆談 受験者の状況により、Q&Aについては質問に対する応答を英文で書いて解答。 ※応答記入時間を設定 (級・設問により異なる) ・発話への配慮 話がつまる、大きな声でできないなどの状況を面接委員に伝え、注意深く受験者の発話を聞く。受験者の発話が止まってしまうと解答を促すような声掛けを行わずに制限時間まで待つ、受験者に大きな発声を促さない等の配慮。	・英検2020 2 days S-Interview受験上の配慮申請 ・障がいの程度を証明する書類 (障害手帳のコピー、医師の診断書、状況報告書等)
吃音症その他で特別措置申請をされた方						

試験対策用問題集作成についての考え方

実施主体名	試験名	試験対策問題集作成についての考え方		問題漏洩などの不正を疑われないような取組
		試験実施主体が問題集作成に関わっているか	問題集に掲載する問題と実際に出題する問題との関係性	漏洩対策(例)
Cambridge Assessment English (ケンブリッジ大学英語検定機構)	ケンブリッジ英語検定	実施主体は作成に関わっている(無償の教材含む)。	実際に使われている試験問題が問題集に掲載される可能性は全くない。	<ul style="list-style-type: none"> ○著者、編集者、出版社は実際の試験の内容にアクセスできない。 ○試験日ごとに異なる試験問題を使用するなど試験問題の内容が事前に知りえないように設計されている。 ○機密試験資材は高度な安全対策が施されたケンブリッジの敷地内で印刷・保管され、ウェアハウス内の発送業者により世界中の認定試験センターに直接送られる。 ○試験当日、試験問題の入った資材袋の開封は受検者の前で行う。 ○万が一問題が事前に漏えいした場合は、代替の試験問題冊子を使用するか、試験の結果を無効として新規のテストで再度実施。 ○試験とサービスを設計・開発・提供するための弊機関のシステムおよびそのプロセスは、ISO9001-2008を満たすものとして国際認証を得ている。
IDP:IELTS Australia	International English Language Testing System(IELTS)	実施主体は問題集を作成していない。	IELTSは問題集に掲載する問題は独自のもので、実際の試験で出題されているものではない。	<ul style="list-style-type: none"> ○公式問題集はケンブリッジ大学出版局から出ているものが主であり、ケンブリッジの作問している部門と出版部門は、同じケンブリッジ大学の中にはあるが、別組織となっている。(IDPでは問題集の出版は行っていない)又、オンライン教材においても同様の扱いである。 ○問題漏洩対策として、テスト問題の入った袋は到着後、保管する際や当日使用する際に全部チェックし、小さな穴が開いているなど漏洩の可能性が試験前に見つかった場合は、レポートの内容に基づいて問題の差し替えを行うこともある。又、テスト日も常に誰かがテストの問題のそばに居ることが義務付けられており、試験後は48時間以内に問題やリスニングテストのCDを、シュレッダー等若しくは指定の業者で全て廃棄する。
ブリティッシュ・カウンシル	International English Language Testing System(IELTS)	実施主体は問題集を作成していないが、監修や情報執筆を行っている。	教材に実際の試験問題が使用されることはない。	<ul style="list-style-type: none"> ○問題集においては、個人や試験実施機関と出版社との利益誘導などがないように、必ず承認システムを明確にして出版に合意する必要があるほか、学習者や受検者に対して支援となる教材を作るということを目指すことということが規定されている。 ○教材はケンブリッジ大学出版局から出ているものが主であり、ケンブリッジの作問している部門と出版部門は、同じケンブリッジ大学の中にはあるが、別組織となっている。 ○ブリティッシュ・カウンシルが独自に作成した試験実施規定の導入により安全性を担保。 (対策例:試験監督者、採点者の管理/試験問題管理施設の厳格な規定/試験問題移動・開封・破棄に関する記録と管理/不正にかかわる世界的な調査プラットフォームの構築/組織内での定期的な監査と指導/利益誘導や漏えいに対する規定とトレーニング/国外での採点/受検者と採点者の直接的な接触禁止規定の順守 等)
Educational Testing Service	TOEFL iBT®テスト	実施主体が問題集を作成している。	教材に使用している問題は、全て過去問題であり、それが将来テスト問題として使用されることはない。	<ul style="list-style-type: none"> ○あらゆる情報保護のフレームワークや情報保護ポリシーは、国際基準ISO27000をベースとしており、すべての物的情報資産および電子情報資産の機密性、プライバシー、完全性や可用性を保持している。 ○ETSに所属する者は、毎年団体情報保護ポリシーにサインをし、情報保護に関する研修を受けなければならない。

実施主体名	試験名	試験対策問題集作成についての考え方		問題漏洩などの不正を疑われないような取組
		試験実施主体が問題集作成に関わっているか	問題集に掲載する問題と実際に出題する問題との関係性	漏洩対策(例)
株式会社ベネッセコーポレーション	GTEC	問題集を作成している。	問題集は、ホームページ等において公開している出題内容に基づき作成されている。また問題集で使用された問題が、実際の試験で使用されることはない。	<ul style="list-style-type: none"> ○試験問題を作る組織と問題集を作る組織は、完全に分離されている状態。検定で出題される問題が、問題集などを通して事前に公開されることはありません。 ○試験問題を作る担当者と問題集を作る担当者は同一でない。 ○試験問題を作る組織は、他の組織と隔離された専用執務室で行っており、試験問題のデータベースには、試験問題を作る担当者のみがアクセスすることができ、それ以外の者のアクセスは遮断されている。 ○問題冊子やタブレット端末は試験会場に当日配送を行う。 ○タブレット端末には、事前の問題漏洩を防止する機能をアプリケーションに複数実装している。(アプリケーションを開くために試験当日にしか試験監督者が知り得ない固有番号の入力が必要。更に弊社で指定した日時までアプリケーションの起動が不可能な時限装置を有する。)
公益財団法人日本英語検定協会	TEAP、TEAP CBT、英検	実施主体は問題集を作成していない。	公式の試験対策問題集を作成していない。	<ul style="list-style-type: none"> ○公式の試験対策問題集を作成していない。 ○規定(非公開)に則り、実施運営を行っており、これまで50数年間の歴史の中で、取り立てて指摘すべき本事項における事象はなく、弊社としては、厳正な実施運営を行っているものと判断する。

※本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。

「大学入試英語成績提供システム」参加試験実施主体における第三者評価・自己評価について

実施主体名	試験名	第三者評価			自己評価	
		評価機関	評価内容	評価結果の概要	第三者による参画の度合い	評価内容
Cambridge Assessment English (ケンブリッジ大学英語検定機構)	ケンブリッジ英語検定			<p>第三者評価機関による監査の結果は以下の通りです。</p> <p>1)品質管理システムの国際規格であるISO9001の認証の取得を達成 2)Ofqual(イングランド政府の教育・資格の質評価に関する監督機関)による監査結果に問題なし(あれば試験実施ができない) 3)ALTEの監査で、ケンブリッジのレベル別試験については、ヤングラーナーズ対象のケンブリッジ英語検定を含む全てのケンブリッジ英語検定について、ALTEの基準をクリアしている品質を保証する「Qマーク」が付与されている。最近の監査は2018年に行われ全てクリアしQマーク付与。次回は2023年。</p>	総数22名、うち第三者1-2名	<p>当機関は次のような第三者評価機関による監査を受けています。</p> <p>1)品質管理システムの国際規格であるISO9001の認証を取得しており、これを達成するため、内部監査と外部監査を実施、BSI(英国規格協会)より1年に2回監査を受けている 2)ほぼ定期的に実施されるOfqual(イングランド政府の教育・資格の質評価に関する監督機関)による監査 3)ALTE(ヨーロッパ言語テスト協会)による5年に1度の監査 ケンブリッジのレベル別試験については、Pre A1-A2レベルのヤングラーナーズ対象のケンブリッジ英語検定を含む全てのケンブリッジ英語検定について、ALTEの基準をクリアしている品質を保証する「Qマーク」が付与されています。最近の監査は2018年に行われ全てクリア。</p>
IDP:IELTS Australia	International English Language Testing System(IELTS)	Ofqual (Office of Qualification and Examinations Regulation) ※イングランドの公式な政府の法定規制機関。特定の省庁に属さず議会で直接報告する。	<p>○試験の内容、実施体制及びテストの信頼性・妥当性等について厳密な第三者評価が行われている。 ○試験対策教材、対策講座等についても、受験者にとって「unfair advantage(不公平な優位性)」を生じないように、それを回避するための手続きを有しているかどうかをチェックする。 ○試験センターのセキュリティは抜き打ち視察を含む定期的な査察官によるチェックを受ける。 ○違反があれば、試験実施団体の活動停止処分もあり得る。</p>	「Ofqual (https://www.gov.uk/government/organizations/ofqual)」により、「試験の内容、実施体制及びテストの信頼性・妥当性等」について第三者評価が行われており、「認定」の評価結果が得られている	<p>・年4回行われる監査のうち、必ず1回は外部機関からの監査官1名～2名によって行われる。 ・試験の内容についての第三者機関による検証が行われているが明確な人数の提供は困難。</p>	<p>・外部研究者による信頼性・妥当性の研究に対して研究費の助成を行っている。 ・IDP独自に加え、パートナー間で作成した試験実施規定(IELTSの規定を厳格化)の導入により安全性を担保している。 ・対策例 1)試験監督者、採点者の管理 2)試験問題管理施設の厳格な規定 3)試験問題移動・開封・破棄に関する記録と管理 4)不正にかかわる世界的な調査プラットフォームの構築 5)組織内での定期的な監査と指導 6)利益誘導や漏えいに対する規定とトレーニング 7)IDP本部のAudit TeamによるJSAF、北九州予備校の監査と指導</p>
ブリティッシュ・カウンシル	International English Language Testing System(IELTS)			<p>・下記リンクサイト(英国Ofqualサイト)にて、IELTSが英国の情報を公開。 ・Ofqualは、IELTSが英国政府が定める基準を満たす英語資格であることを証明しています。IELTSで証明される英語力は、英国内での資格認定のための枠組みに参照され、バンドスコアごとに下記の通り表記されインターネット上で情報が公開されています。 https://register.ofqual.gov.uk/Search?category=Qualifications&query=IELTS&status=Available%20to%20learners</p>	<p>・年4回行われる監査のうち、必ず1回は外部機関からの監査官によって行われる。 ・試験の内容についての第三者機関による検証はかなりの数が行われている。(明確な人数の提供が困難)</p>	<p>・外部研究者による信頼性・妥当性の研究に対して研究費の助成を行っている。 ・ブリティッシュ・カウンシルが独自に作成した試験実施規定(IELTSの規定を厳格化)の導入により安全性を担保している。 ・対策例 1)試験監督者、採点者の管理 2)試験問題管理施設の厳格な規定 3)試験問題移動・開封・破棄に関する記録と管理 4)不正にかかわる世界的な調査プラットフォームの構築 5)組織内での定期的な監査と指導 6)利益誘導や漏えいに対する規定とトレーニング 7)ブリティッシュ・カウンシルIELTSグローバルチームによる英検テストセンターの監査と指導</p>

実施主体名	試験名	第三者評価			自己評価	
		評価機関	評価内容	評価結果の概要	第三者による参画の度合い	評価内容
Educational Testing Service	TOEFL iBT®テスト	<p>ANSI-ASQ National Accreditation Board (ASQ: American Society for Quality) (ANSI: American National Standards Institute) International Accreditation Forum</p> <p>※ANSI National Accreditation Board: 米国適合性認定機関 (ANAB) ANABは、北米最大の多分野に渡る認証機関で公的機関および民間機関に認証サービスを提供する非政府組織であり、米国国家規格協会 (ANSI) によって所有されています。2018年12月にANSIがthe ANSI-ASQ National Accreditation Board, LLCの全利益を取得、ANSI National Accreditation Board (ANAB) となりました。ANSI-ASQ National Accreditation Board (米国適合性認定機関) とは、ISO9000、ISO14000等の規格審査登録機関で1989年にASQ (American Society for Quality: アメリカ品質協会) による認定機関として設立。1996年、ISO14000規格のリリース時にANSI (American National Standards Institute: 米国国家規格協会) との協力関係を結び、品質・環境マネジメントシステム等の認証業務を行ってきました。ANSIは、工業規格の標準化を行っている非営利団体で日本のJIS (日本工業規格) に相当し、国際標準化機構 (International Organization for Standardization / ISO)、および米国国内委員会を介しての国際電気標準会議 (the International Electrotechnical Commission / IEC) への公式な米国代表を務めています。</p> <p>※International Accreditation Forum: 国際認定フォーラム (IAF) IAFは、1993年に創設されたマネジメントシステム、製品、サービス、人員、および適合性評価などの適合性評価をおこなっている国際的な認定協会。</p>	<p>ETSでは、ANSI-ASQ National Accreditation Boardによってテストのクオリティーや実施などにおいて監査・認証を受けていることに加え、ETS作成プロダクトとサービスの品質・公平性の保持のために、内部監査システムも構築しています。ETSではAmerican Educational Research Association, American Psychological Association, National Council on Measurement in Educationの3団体が作成/出版したThe Standards for Educational and Psychological Testingに準拠した (ETSのニーズに応じて新項目を追加、あるいは削除し) ETS Standards for Quality and Fairness を作成し、このETS Standardsに沿った形で内部で監査チーム (ETSスタッフや外部の人間で構成) を組織し、ETSの各プログラムに対して監査をおこなっています。(通常3年に1度)。監査の結果は、ETS Board or Trustees (評議会) は報告されます。また外部の人間が監査役となり、試験に関する見解や一般的な観点を提供しています。</p> <p>※ETS Standard for Quality and Fairness https://www.ets.org/s/about/pdf/standards.pdf</p> <p>■評価内容 (項目) ETS本部のあるニュージャージー州 (他2州含む) にある全事業所が提供するETSのテクノロジー、テスト、アセスメントサービス、および教育、政府、事業の各団体のインフラストラクチャーに関連した事業継続管理システムについて (PS-Prep ISO 22301:2012) およびETSが提供する教育サービス (テストデザイン、配信、クオリティー、公平さ) などの品質管理システム (ISO9001:2015) について認証を受けている。</p>	<p>ETS本部のあるニュージャージー州 (他2州含む) にある全事業所が提供するETSのテクノロジー、テスト、アセスメントサービス、および教育、政府、事業の各団体のインフラストラクチャーに関連した事業継続管理システム (PS-Prep ISO 22301:2012) およびETSが提供する教育サービス (テストデザイン、配信、クオリティー、公平さ) などの品質管理システム (ISO9001:2015) に対する認証を取得している。これによりETSは強固な管理システムを備えていることが承認されている。</p> <p>https://www.ets.org/s/about/pdf/ets_ps_prep_cert.pdf</p> <p>https://www.ets.org/s/about/pdf/ets_dekra_cert.pdf</p>	<p>第三者を含む総数14名で実施</p>	<p>ETSでは、ETS作成プロダクトとサービスの品質・公平性の保持のために、内部監査システムを構築している。ETSでは American Educational Research Association, American Psychological Association, National Council on Measurement in Educationの3団体が作成/出版したThe Standards for Educational and Psychological Testingに準拠した (ETSのニーズに応じて新項目を追加、あるいは削除し) ETS Standards for Quality and Fairness を作成し、このETS Standardsに沿った形で内部で監査チーム (ETSスタッフや外部の人間で構成) を組織し、ETSの各プログラムに対して監査をおこなっている。(通常3年に1度のペース)。監査の結果は、ETS Board or Trustees (評議会) に報告される。また外部の人間が監査役となり、試験に関する見解や一般的な観点を提供している。</p> <p>※ETS Standard for Quality and Fairness https://www.ets.org/s/about/pdf/standards.pdf</p>
株式会社ベネッセコーポレーション	GTEC	<p>第三者評価の受審を検討中</p>	—	—	<p>・問題内容に関しては、GTECと契約を結んだ、英語教育や英語テストに関する大学有識者複数名に審査・監修していただいております。また大学有識者とは別に、英語テスト専門の外部スタッフにも審査してもらっております。</p>	<p>・問題作成にあたり、審査会を設定し、外部有識者に下記の観点で確認してもらっている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 高校生の英語力を測るテストとして内容が適しているか ② 場面設定、使用されている英語は適切でオーセンティックか ③ 問題が成立しているか ④ 解釈に困らないイラストとなっているか ⑤ 出題レベルは適切か

実施主体名	試験名	第三者評価			自己評価	
		評価機関	評価内容	評価結果の概要	第三者による参画の度合い	評価内容
公益財団法人 日本英語検定 協会	TEAP、TEAP CBT、英検	<p>特定非営利活動法人全国検定振興機構※による第三者評価を実施中。</p> <p>※当法人は、検定試験の質的向上及びその社会的通用性の向上に関する事業を行い、もって、我が国の教育の推進に貢献する。そのために、検定実施団体の運営に関する支援や検定試験の質的向上のための調査研究及び検定試験の普及促進を行い、教育機関、企業及びその他団体並びに個人に対して安心して受験できるように環境を整備し、その学習成果が適切に評価・活用される社会の実現に寄与することを目的とする。</p>	<p>○文部科学省後援の第三者評価</p> <p>■総括評価 ・検定の自己評価実施を前提として、当該自己評価の内容を複数の評価員により、書類で確認、訪問審査を行った上で、検定の実施組織、実施状況、問題の作成・管理、継続的学習支援・活用促進等検定全般に渡って評価がなされ、評価の結果合格すると第三者評価認証が与えられる。</p> <p>■会場運営評価 ・事前審査 会場運営についての自己評価を書類提出した上、評価員が審査をする。 ・実地審査 事前審査に合格した後、評価検定試験当日に実際の試験会場を監査員が抜き打ちで訪問して実地監査を行い、試験会場の運営状況を評価する。訪問する試験会場の数・地域は全会場から統計学的に算出する。評価の結果合格すると、第三者認証が与えられる。</p>	<p>・現在、実用英語技能検定にかかる総括評価を実施しているところであり、現時点において第三者評価の結果は受領していない。</p>	<p>検定試験提供の各プロセスにおける第三者の評価度合い ・問題作成・合否判定等については、英語教育やテスト理論に関する複数の専門家・有識者等 ・試験実施運営については、複数の試験実施業者等</p>	<p>・検定試験提供の各プロセスにおいて外部の第三者の評価を得るなどし、試験の品質維持・向上に努めている。</p> <p>・平成29年10月に文部科学省により取りまとめられた「検定事業者による自己評価・情報公開・第三者評価ガイドライン」に基づく観点で自己評価シートを作成している。</p>

※本資料については、各試験実施主体からの回答をもとに、文部科学省でとりまとめたものとなります。

